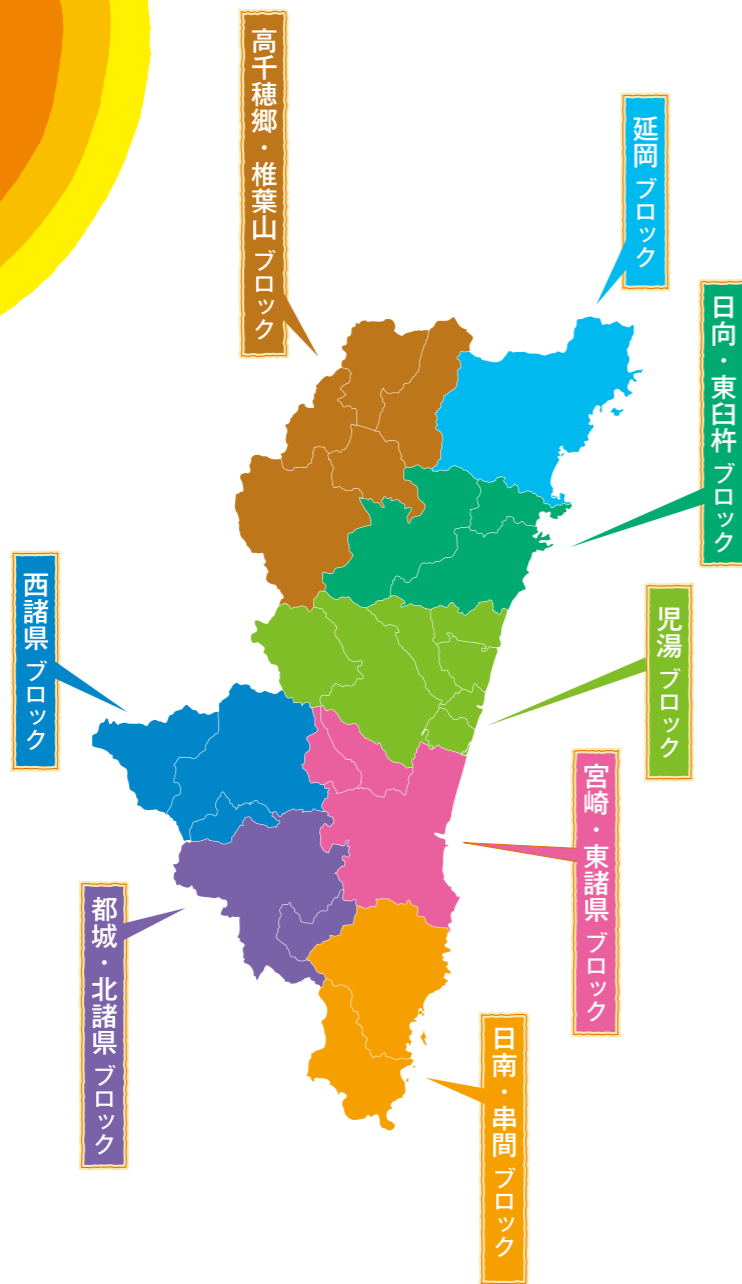


第40回
地域づくり団体
全国研修交流会
宮崎大会



第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会



よっぴん!
みて!
まて!

日本の
ひなた
宮崎県

報告書

スケジュール

令和6年
11/1 金
全体交流会
ザ・メイビア宮崎

令和6年
11/2 土
分科会
県内8会場

令和6年
11/3 日
分科会・全体会
KITENビル

第40回 地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会 報告書
令和7年3月発行

編集・発行 第40回地域づくり団体全国研修交流会
宮崎大会実行委員会事務局

参加申込受付業務等受託者 株式会社アイロード・プラス

【主催】地域づくり団体全国協議会 第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会実行委員会 宮崎県地域づくりネットワーク協議会

よっぴん！みで！あしき

日本の
ひなた
宮崎県

第40回地域づくり団体
全国研修交流会
宮崎大会

報告書

スケジュール

令和6年 **11/1** **金** 全体交流会
ザ・メイビア宮崎

令和6年 **11/2** **土** 分科会
県内8会場

令和6年 **11/3** **日** 分科会・全体会
KITENビル



- 開催概要 04
- 分科会一覧 06
- 全体交流会フォトギャラリー 08
- 全体交流会あいさつ
 - 宮崎大会実行委員長 島中 星輝 10
 - 宮崎県副知事 佐藤 弘之 11
 - 宮崎県知事 河野 俊嗣
 - 一般財団法人 地域活性化センター理事長 林崎 理 12
 - 宮崎市副市長 帖佐 伸一 13
- 分科会開催内容
 - 第1分科会 高千穂郷・椎葉山 ブロック 14
世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域のありのままを楽しむ地域づくり
 - 第2分科会 延岡 ブロック 18
神々が選んだパワーの水と伝統を活用した地域づくり
 - 第3分科会 日向・東臼杵 ブロック 22
海がつなく“ひなた”のMellow Life
 - 第4分科会 児湯 ブロック 26
サッカー+地域おこし協力隊=地域づくり
 - 第5分科会 宮崎・東諸県 ブロック 30
行政や地元住民、移住者、学生、さまざまな人が参加するまちづくり
 - 第6分科会 西諸県 ブロック 34
地域の資源（人・もの・自然）を活かした協働のまちづくり～新たな担い手づくり
 - 第7分科会 都城・北諸県 ブロック 38
「肉と焼酎」
 - 第8分科会 日南・串間 ブロック 42
日本唯一の野生馬ツーリズムとシャッター商店街の軌跡
- 全体会フォトギャラリー 46
- 全体会あいさつ
 - 地域づくり団体全国協議会 会長 西村 幸夫 48
 - 宮崎県副知事 佐藤 弘之 49
 - 総務省地域力創造審議官 望月 明雄 50
 - 宮崎大会実行委員長 島中 星輝 51
 - 全体報告会 52
- 参加者アンケート 60
- 次回開催県 栃木県 PR 61
- 参加者一覧 62

開催概要



きて！みて！よってん！日本のひなた宮崎県 第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会

開催趣旨

ひなた。それは漢字で書くと「日向」。ふりかえれば、宮崎は神話の時代から「日向」と称されてきた土地でした。美しい自然と豊かな食材に恵まれている宮崎県において、全国レベルの研修や情報交換を行うことにより、県内外の地域づくりネットワークの更なる活性化を図り、世代を超えた新しい地域づくりを目指す「第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会」を開催します。

主催

地域づくり団体全国協議会
第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会実行委員会
宮崎県地域づくりネットワーク協議会

後援

総務省
一般財団法人地域活性化センター

開催日時

令和6年11月1日(金)～11月3日(日・祝)

- ・全体交流会：11月1日(金) 18:00～20:00
- ・分科会：11月2日(土)～11月3日(日) 午前中まで
- ・全体会：11月3日(日) 13:30～15:30

開催場所

- ・全体交流会：ザ・メイピア宮崎(宮崎市下原町247-18)
- ・分科会：宮崎県内8会場
- ・全体会：KITENビル8階 コンベンションホール(宮崎市錦町1番10号)

全体交流会・全体会プログラム

全体交流会

- 歓迎セレモニー 日向ひよつとこ踊り(橘ひよつとこ踊り保存会)
- 主催者開会あいさつ 島中 星輝(第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会 実行委員長)
- 歓迎あいさつ 佐藤 弘之(宮崎県副知事)
- 来賓あいさつ 林崎 理(一般財団法人 地域活性化センター理事長)
- 来賓紹介
- 乾杯発声 帖佐 伸一(宮崎市副市長)
- 大学との協働発表 宮崎大学
- 分科会紹介 8分科会代表
- 閉会あいさつ 川上 喜義(第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会 副委員長)
- 記念撮影
- 閉会



全体会

- 主催者開会あいさつ 西村 幸夫(地域づくり団体全国協議会会長)
- 歓迎あいさつ 佐藤 弘之(宮崎県副知事)
- 来賓あいさつ 望月 明雄(総務省地域力創造審議官)
- 分科会報告 第1分科会～第8分科会(ブロック長・宮崎大学学生)
- 次回開催県PR 栃木県
- 閉会あいさつ 島中 星輝(第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会 実行委員長)
- 閉会



第1分科会 高千穂郷・椎葉山ブロック

P14 高千穂町・五ヶ瀬町・
日之影町・諸塚村・椎葉村
【参加人数】18名

世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域の
ありのままを楽しむ地域づくり

高千穂郷・椎葉山 ブロック

延岡 ブロック

第2分科会 延岡ブロック

P18 延岡市
【参加人数】19名

神々が選んだパワーの水と
伝統を活用した地域づくり



第3分科会 日向・東臼杵ブロック

P22 日向市・門川町・美郷町
【参加人数】18名

海がつなぐ“ひなた”の
Mellow Life



日向・東臼杵 ブロック

第4分科会 児湯ブロック

P26 西都市・高鍋町・新富町・
西米良村・都農町・木城町・
川南町

【参加人数】23名

サッカー + 地域おこし協力隊
= 地域づくり



児湯 ブロック

第6分科会 西諸県ブロック

P34 えびの市・小林市・高原町
【参加人数】20名

地域の資源（人・もの・自然）を
活かした協働のまちづくり
～新たな担い手づくり

西諸県 ブロック

宮崎・東諸県 ブロック

第5分科会 宮崎・東諸県ブロック

P30 宮崎市・綾町・国富町
【参加人数】29名

行政や地元住民、移住者、学生、
さまざまな人が参加する
まちづくり



都城・北諸県 ブロック

日南・串間 ブロック

第7分科会 都城・北諸県ブロック

P38 都城市・三股町
【参加人数】38名

「肉と焼酎」



第8分科会 日南・串間ブロック

P42 日南市・串間市
【参加人数】20名

日本唯一の野生馬ツーリズムと
シャッター商店街の軌跡





「日向ひよっとこ踊り」歓迎セレモニー



各分科会の紹介



宮崎大学の根岸教授、大学生による分科会の紹介



宮崎県産のグルメや焼酎などが会場を彩る





宮崎大会実行委員長 **島中 星輝**

皆様こんばんは。ようこそ「日本のひなた」宮崎県へ！今日はいいひなたでございませう。私は、「地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会実行委員長」の島中星輝でございます。どうぞよろしくお願いいたします。2泊3日のわくわくするような体験を皆様へ提供するべく、首を長くして今日をお待ちしておりました。

私は普段、「宮崎県地域づくりネットワーク協議会」の会長として、仲間とともに地域づくり活動に励んでおります。肩書こそ会長ですが、仲間からは「しょちゅくれ」と呼ばれております。「しょちゅくれ」とは宮崎弁で「酔っ払い」という深い愛情に満ちた愛称であります。同協議会は、「楽しくなければ地域づくりではない」をモットーにしており、県内の地域づくりリーダーが集う組織となっております。

協議会活動が30年に及んでいるので、結束もかなり高まっており、会でも素晴らしいアイデアがたくさん出てきます。ただ、私が「しょちゅくれ」のために次の日には忘れていくということも、しばしばございます。だからこそ、毎回新鮮な気持ちで地域づくりに励むことができていると、前向きに捉えております。そんな「地域づくりネットワーク協議会活動」にプラスして、今回の実行委員会は宮崎県及

び県内各市町村の頼もしいサポートをいただき、全国に誇れる素晴らしいチームになったと思っております。

本大会の目的は非常にシンプルです。地域づくりに励む全国の皆様方とともに交流することで、刺激と元気ももらって、「よっしゃ明日からも地域づくりを頑張るぞ!」と思ってもらえる大会にすることです。地域に出て、人に出会って、美味しいものを食べて、ときには「しょちゅくれ」になって、そういった具合に楽しんでいただくことが、地域づくりの価値であり、醍醐味であり、そして面白さだと私は信じております。

最後にもう一つ、皆様に宮崎弁を覚えていただきたいと思っております。それは「てげ」という言葉です。「とても」という言葉です。最上級は「てげげ」になります。「てげ楽しい」とか「てげ美味しい」とか「てげ嬉しい」、こういった感じで使います。明後日また皆さんと再びお会いします。そのときに本大会の感想が、「宮崎ん来て、てげよかった!」となるような大会になることを期待しつつ、私の挨拶とさせていただきます。

宮崎大会、ともに満喫して参りましょう。どうぞよろしくお願いいたします。



宮崎県副知事
佐藤 弘之

皆様こんばんは。宮崎県副知事の佐藤と申します。この「地域づくり団体全国研修交流会」は25年ぶりに宮崎県で開催されるとお聞きしております。皆さんようこそ宮崎県にお越しくださいました。天気心配もありますが、充実した研修会になることを祈っております。

宮崎の魅力について、知事がよく「5つのS」と言いますので、その言い方で紹介させていただきます。「5つのS」というのは「食・スポーツ・自然・森林・神話」になります。

まず「食」ですけれども、今日も会場に出ておりますが、まずは「宮崎牛」です。「和牛オリンピック」と言われる「和牛能力共進会」で4大会連続で「内閣総理大臣賞」を受賞しております。「日本一」と言われている「宮崎牛」をぜひ堪能いただきたいと思っておりますし、地鶏、魚介類も美味しいものがあります。今回の分科会の中でも「ブリ」を食べるところがあるようですが、「カツオ」、「ウナギ」などの美味しいものがあります。他に野菜も「太陽のめぐみ」がたくさんあり美味しいものがありますので、「食」を楽しんでください。

次に、「スポーツ」ですが、宮崎は「ゴルフ場」が街中から近いところにたくさんあり、「サーフィンスポット」もたくさんあります。それからスポーツキャンプ・合宿が盛んに

行われていて、今まさに野球の「侍ジャパン」が「WBSCプレミア12」に向けてキャンプを行っていて、多くのお客さんが見えになっております。ラグビーの日本代表も合宿で継続的に宮崎に来ていただいております、これを一つの強みとしています。

次に、森林資源を含めた「自然」ですが、海とか山、たくさんの風光明媚な場所もあります。海岸線がキレイな長瀬もありますし、山もトレッキングや登山が盛んに行われています。

最後に「神話」ですが、古事記・日本書紀の舞台にもなっており、高千穂も天孫降臨の地として、そして「天の岩戸」の伝説の場所としても有名です。天孫降臨の地は、北と南と西の諸説があり、色んな議論が盛んで面白いかと思います。それから、西都原古墳に行かれるところもあると聞いていますが、そこには「記紀の道」というのがあります。日本書紀に出てくるような舞台が現実の場所としてありますので、そういうものを見ながら楽しんでいただきたいと思っております。

今回の研修が実り多いものとなりますことをお祈りし、挨拶いたします。



急遽会場に駆けつけた知事によるあいさつ



Special Guest 宮崎県知事 **河野 俊嗣**

全国からお越しいただいた皆さん、心から歓迎を申し上げます。他の会合に行っておりましたが、皆さんに挨拶しない訳にはいかないだろうという思いでやってきました。私も、自治省、総務省に勤めておりましたので、地域づくりをいろんな立場で取り組んできました。本当に熱い皆さんが、こうやって全国から集まっていたら、本当に嬉しく思います。

そして宮崎は「日本のひなた」ということで、天気が誇りなんですけど、明日、明後日はちょっと雨模様かもしれませんが、今日登壇していただいた皆さんを含めて、全国の皆さんを全身全霊でお迎えすべく準備をしています。ぜひ気持ちに答えていただいて、素晴らしい大会になることを祈っております。



一般財団法人 地域活性化センター理事長
林崎 理

皆さんこんばんは。ただいまご紹介いただきました、「地域活性化センター」理事長の林崎でございます。「第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会」の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずはこうして無事に開催にこぎつけられ、本当におめでとうございます。ここ宮崎県では、今年は大変で8月の日向灘地震や、あるいは台風・突風等の自然災害が発生しました。被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。いつもながらですけども、関係者の皆様にご尽力いただきまして、県内外からこうして地域づくり団体や地方自治体の方々など、地域づくりに携わる皆様の参加を得まして、本大会がここ宮崎県にて開催されますことを本当に喜ばしく思います。

私共「地域活性化センター」は、平成6年度から「地域づくり団体全国協議会」の事務局を務めておりまして、30年に渡って地域づくり団体のご支援を行っております。そういう意味で、こうしてご紹介をいただくのが若干不思議な気もいたしますが、来賓としてご挨拶をさせていただいております。最近非常に時代も大きく早く流れておりまして、ますます地域づくりが大事になっていると思います。「活性化センター」は地域づくりを応援するため、様々な情報提供、あるいは人材育成をやっております。少しだけこの場を借りてPRさせていただきます。本日参加いただいている中に行政関係の皆様もいらっしゃると思いますけども、「地方創生実践塾」を奄美で11月半ばに行います。素晴ら



しい中身なんですけど、中々それが伝わっていないのでPRを頼まれて、[メディアラボ]といい、自分の地元のPR動画を作るというトレーニングをたった2日でできてしまうというもので、先生も有名な方で民間でやると優に30万円位はかかる内容のもので、1万円ちょっとで受けられますのでご紹介いたします。

さて宮崎県では、今年の1月に全国大会のプレ大会が開催されまして、私もそこに参りました。そのときに宮崎大会の実行委員長であります、島中星輝様をはじめ関係者の皆様から地域づくりのネットワークの強さ、それから地域を思う熱い気持ち、これを痛いほど感じました。それ以来この全国大会を心待ちにしておりました。今回、この宮崎県において「きて!みて!よってん!日本のひなた宮崎県」というテーマで全国大会が開催されます。県内各地の歴史や自然、食文化など地域資源に触れつつ、地域づくりの取り組みを学んで、そして交流や連携の輪を広げられることを望みます。ぜひこの全国大会で得た知識、体験、ネットワークそして感動を余すところなくそれぞれの地域にお持ち帰りいただきまして、今後の地域づくりに生かしていただければと思う次第でございます。

最後に、本大会の開催にあたりご尽力いただきました宮崎大会実行委員会をはじめとする地域づくり団体の皆様、宮崎県及び県内市町村の関係者の皆様にご心から感謝の意を申し上げますとともに今大会の成功を祈念申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。



宮崎市副市長
帖佐 伸一

皆さんこんばんは。宮崎市副市長の帖佐でございます。本日は、ようこそ宮崎にお越しいただきまして心から感謝申し上げます。

宮崎市は、市制施行100周年を今年迎えております。その100周年にあたりまして、このような研修会を宮崎市で開催いただくことを誠にありがたく光榮に思っております。

宮崎市におきましても「まちづくり」のあり方を大きく変えようとしております。平成の合併を経て、旧町の方々との一体的なまちづくりを推進するため、地域自治法に基づく「地域自治区制度」を導入し、「地域協議会」を設置し「まちづくり」をスタートさせました。実はこの制度が始まった当時、私は担当部長を務めておりました。

あれから20年近くが経っておりますので、だんだんと形を変えていかないと「まちづくり」をうまく展開できないという課題に直面しております。そこで今年度中にこの体制

を見直して、来年度からはより柔軟に「まちづくり」に対応できる体制にしていこうということで取り組んでいるところでございます。

私自身も「まちづくり」に携わってきた経験から、皆様の熱い想いに深く共感しております。

結びに、この研修会が大成功に終わりますことを祈念いたしまして、乾杯!



世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域のありのままを楽しむ地域づくり



分科会の概要

まずは、高千穂町の荒立神社を参拝。そこから地元ガイドの案内でフットパス開始。天真名井、榎觸神社、遭初天神と歩き下川登公民館へ。下川登活性化協議会お手製のかつぼ鶏、お煮しめ、だご汁などをいただき、伝統芸能である下川登神楽を鑑賞。宿泊地である五ヶ瀬の里キャンプ村に移動し、五ヶ瀬温泉木地屋で入浴。五ヶ瀬町横通公民館で世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域で活動している住民を交え、地域の特産を活かした手料理やジビエをあてに、地酒を飲み、更に、五ヶ瀬の里キャンプ村に戻り、薪ストーブで温まりながら夜なべ談義を行った。2日目はユネスコ無形文化遺産に指定された「荒踊」を鑑賞。多くの住民が伝承に関わっている貴重な舞を堪能した。大雨の中ではあったが、参加者は「フットパス」を通じて、住民と交流しながら、その土地に根付いた生活を知ること、地域の本質に触れられたようである。



高千穂町甲斐町長と記念撮影



料理の説明を受ける

分科会スケジュール

1日 11月2日 土

- 7:10 宮崎駅東口 集合・出発
- 10:00 荒立神社～榎觸神社
- 11:45 下川登フットパス
- 13:00 昼食交流会
- 15:00 五ヶ瀬の里キャンプ村
- 16:00 木地屋（温泉）
- 18:00 夕食交流会
- 21:00 夜なべ談義

2日 11月3日 日

- 8:10 宿泊先 出発
- 8:30 荒踊鑑賞
- 10:00 がまだせ市場
- 11:00 全体会場へ出発
- 13:15 宮崎駅（バス内で昼食）
- 13:25 全体会場到着



あらたて 荒立神社 参拝

荒立神社の御利益は、夫婦円満、縁結び、所願成就、猿田彦命は交通安全、教育の神、天細女命は歌や舞、芸能の神として有名な珍しい神社である。切り出したばかりの荒木で急ぎ宮居を作ったため、この名がついた。芸能人も多数参拝し、TVアニメ「推しの子」にも登場している神社という説明もあり、参加者は限定の御朱印などを購入していた。



くしふる 榎觸神社 参拝

記紀神話で「天孫降臨」の地として伝わる「榎觸の峰」にある榎觸神社。昔から神山として崇められ、高千穂八十八社の一つ。古事記の一文に「筑紫日向高千穂之久士布流多氣に天り坐しき」と書かれており、古くは「榎觸の峰」を御神体としてお祀りしていたが、元禄7（1694）年に社殿を建立。本殿は町の有形文化財に指定されている。



しもかわのぼり 下川登フットパス

日向還が集落の中を貫く下川登地区の古道をフットパスした。この地区では、神々を大切にしながら暮らしてきた人の営みを感じることができ、参加者も楽しんでいった。スタート地点からはゆっくりとした下りが続き、中盤は上りが、その後もアップダウンのあるコースとなっていた。



高千穂下川登公民館での昼食交流会

高千穂下川登活性化協議会の婦人会の方々をご用意して下さったお料理をいただきながらの地区の方々との交流会。かつぼ鶏、だご汁、竹の器に入った煮しめ、梅酢卵、かしわ飯とトウモロコシのおにぎり、金時豆、卵焼き、やまと瓜の酢の物など、どれもとても懐かしい味で美味しかった。特に煮しめの椎茸が肉厚で良かった。町長の自宅で収穫した椎茸だそうで、高千穂町下川神楽保存会による神楽の発表はとても素晴らしかった。「これを見るために宮崎に来たのよ」と言われる方も多かった。

五ヶ瀬横通公民館にて夕食交流会

高千穂郷・椎葉山フットパスをされている「加工所よこっちょ」の甲斐さんの作った煮しめ、なば(椎茸)南蛮、やまと瓜の酢の物など珍しくて美味しいものを食べながらの夕食交流会。椎葉村十根川フットパスガイドの那須さんの手打ちそばは風味が良く美味しかったと好評であった。諸塚観光協会の田邊さんの諸塚どんこ(椎茸)の炭火焼は、焦げたマヨネーズが最高でお酒が進んでいた。五ヶ瀬自然学校より杉田さんの仕込んだシカ肉の赤ワイン漬炭火焼と猪肉のみそ煮が提供され、獣臭さが全くないと評判だった。



夜なべ談義

五ヶ瀬の里キャンプ村にて、夜なべ談義という名の二次会スタート。参加者は少ないだろうと思いきや、全員参加の大盛況。本日2回も自己紹介をしたにも関わらず、皆さん大いに語りあった。暖炉の温もりが心地く、五ヶ瀬の里キャンプ村の醍醐味が活かされた夜なべ談義であった。



あらおどり 荒踊鑑賞

「荒踊の館」館内を荒踊保存会の方々に案内していただき、一緒に写真撮影。ホールでの荒踊の説明の後、荒踊を鑑賞した。火縄銃の音など五感フル活用の、間近での鑑賞はたいへん評判だった。



がまだせ市場

高千穂産の新鮮野菜・加工品が揃う物産市場「鬼八の蔵」をはじめ、高千穂牛が堪能できる「レストラン和」など、高千穂の旬が詰まった市場。当日は「推しの子」のイベントをしており、家族連れや若者で込み合っていた。



参加者アンケート紹介

- 下川登の地域の方々総勢で出迎えや地元の料理、神楽など楽しく学ばせていただいた。
- 現地スタッフの皆さんのおもてなしが素晴らしかった。
- スタッフの行き届いた心配りが随所に感じられて良かった。
- おもてなしも地域の多くの方々の歓迎を受けて手料理をだしていただき、たいへん良かった。
- 地域の当事者の方々との交流もゆったりとでき、ツアー参加者も含めると実に様々な立場の人が混在しており、それが面白かった。お酒は大切だが、それ以外の飲み物もいろいろとあり、工夫されているなど感じた。

参加者内訳 参加者 18名

| | |
|----------|----------|
| ■ 長野県 5名 | ■ 石川県 3名 |
| ■ 東京都 2名 | ■ 島根県 2名 |
| ■ 群馬県 1名 | ■ 栃木県 1名 |
| ■ 島根県 1名 | ■ 香川県 1名 |
| ■ 熊本県 1名 | ■ 沖縄県 1名 |

分科会を振り返って

朝の出発が一番早く、一番最後に宮崎市に帰ってくる、宮崎県での最北部の第1分科会であったが、その価値も高かった。第1分科会は「フットパス」が目玉であったが、「フットパス」を通して住民の方と交流をしながら、その土地に根付いた生活を知ること、地域の本質に触れられるという点が感銘を受けたところであった。全体会の会場に向かうバスの中で、最後に一人ずつ感想をとマイクが回り、「参加して良かった」「楽しかった、また訪れます」「ありがとう」など、あたたかい言葉が飛び交った。「第1分科会を選んで本当に良かった」という参加者が多かった。今まで取り組んできた姿勢への感動の言葉であり、伝統を重んじ、持続的なまちづくりを共有した分科会であった。



神々が選んだパワーの水と伝統を 活用した地域づくり



分科会の概要

今回のテーマは「神々が選んだパワーの水と伝統を活用した地域づくり」。「延岡三蔵協議会」に参加されている清酒の「千徳酒造」、焼酎の「佐藤焼酎製造場」、地ビールの「宮崎ひでじビール」という酒蔵メーカーを訪問し、それぞれ講話を頂いた。3社は地域と連携した活動等にも積極的に参加するなど、地元の活性化にも尽力されている。参加者からの声としては、「通常であれば競合である企業同士が、地域のために手を結び、横のつながりが強固であると感じました。」という声をいただいた。昼食は300年以上の歴史を持つ「鮎やな」で、夕食交流会は延岡ならではの「チキン南蛮」や新鮮な「日向の本サバ」、「へべすブリ」を堪能した。地域の課題として、人材不足、高齢化、後継者をいかに育てるかが難しいというところは、やはりどの地域も同じ課題として持っている悩みなのかなと思った。また、その地域の課題を解決するためには、あらゆる世代が当事者意識を持って行動を起こしていく必要があると感じた。



佐藤焼酎製造場



鮎やなの説明

分科会スケジュール

1日目 11月2日(土)

- 7:30 宮崎駅東口 集合・出発
- 9:30 行藤神社参拝
- 10:00 宮崎ひでじビール工場見学
- 12:30 昼食 (延岡鮎やな)
- 15:00 千徳酒造工場見学
- 15:50 風の菓子 虎彦
- 17:00 愛宕山展望台 (夜景鑑賞)
- 17:30 ホテルチェックイン
- 18:30 夕食交流会

2日目 11月3日(日)

- 8:00 ホテル 出発
- 8:30 佐藤焼酎製造場見学
- 9:30 地域づくり事例紹介
- 10:30 全体会会場へ出発
- 12:00 宮崎駅 (各自昼食)
- 13:10 全体会会場到着

むかばさ 行藤神社 参拝

古代の山岳信仰の御神体である「行藤山」は、大和朝廷時代の初期に日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が熊襲を征討する際、この地の山の形が乗馬用の毛皮の行藤に似ていることから「行藤山」の名前が付いたと伝えられている神社。



鮎やな「ささき」で昼食

塩焼き、味噌焼き、せごし、鮎飯などの鮎三昧の昼食。味噌焼きに使われている味噌が「麦味噌」との話があり、皆、興味深そうであった。



千徳酒造工場見学

明治36年創業の老舗酒造会社。杜氏で社長でもある門田さんより話を聞いた。南国宮崎で「日本酒」を造る会社は1社のみで、相当な苦勞をされた話に参加者は感心していた。



宮崎ひでじビール工場見学

宮崎ひでじビールは九州・宮崎の代表的なクラフトビール。宮崎の北部、祖母傾山国定公園・行藤山の麓、自然豊かな環境で、上質な天然水とフレッシュな自家培養酵母を使用した商品造りを行っている。永野社長より「宮崎ひでじビール」の歴史や三蔵協議会発足の話、幾多の困難を乗り越えてきた話が披露された。話の中にあつた「地域の繁栄とお客様の笑顔」に、参加者は皆、関心を持っていた。



風の菓子 虎彦

昭和24年7月創業の菓子店。上田社長より社訓と地域づくり活動の話をしていただいた。「経営理念は『必笑!』。笑顔は幸福感の象徴ですから、『必笑!』で『安全で美味しいお菓子づくり』を通して、お客様の幸福と社員の幸福を求め続け、社業を発展させて豊かな郷土づくりに貢献する」という経営理念の話がされた。



あたごやま 愛宕山展望台

市街地や日向灘が一望できる展望台。ここからの眺望は「日本夜景遺産」や「日本百名月」にも認定されている。元は「笠沙の御碕・笠沙山」と呼ばれていた愛宕山は、神話に登場する「笠沙の御碕」ともいわれている。ニニギノミコとコノハナサクヤヒメが逢って結婚したという伝説が伝わる。「旭化成」の創業者、野口遵さんがこの場所から周囲を見わたし、起業を決心した場所。



夕食交流会

麦酒蔵HIDEJIIにて開催。三蔵の蔵元も集まり、盛大に交流会が行われた。宴の最後には来年開催の栃木県の参加者から延岡のおもてなしなどの感想があり、しっかりと栃木のPRもされていた。



佐藤焼酎製造場見学

五代目・伝統蔵杜氏甲斐さんより講話があった。次の百年後の蔵人に向けて、日本の伝統文化を承継していくため、新たな時代を拓く次世代の本格焼酎を造り上げていくことが我々に課せられた使命だという話をされた。



地域づくり事例報告

延岡市を中心とするひむかエリア（宮崎県北地域）にある九州ナンバーワンの山、川、海が持つ抜群のポテンシャルを生かし、さまざまなフィールドで来訪者に本物の感動体験を案内できる「ノベ☆スタ（感動体験案内人）」の成崎聡さんより講話をいただいた。また、「愛延会」代表の工藤美智代さんより、歌や音楽を通して夢を叶えることの体験談があった。「愛延会」とは延岡を愛し、活動し、お互いの夢を応援する、延岡の素晴らしさを伝えるために最大限の努力をする団体。オルゴールの演奏もあり、参加者もたいへん魅了されていた。

分科会全体を通して



参加者アンケート紹介

- 受け入れの対応が温かい。お世話になりました。
- とても楽しく参加させていただきました。朝まで地域やプレイヤーを知ることができて良かったです！
- アルコール三昧であったが、その背景には地域づくりの課題を解決してきたストーリーがあり、ほろ酔いのなかで学びも大きかったです。
- 地元料理での交流会でもじゃんけん大会などのおもてなしをいただき非常に楽しく過ごせました。ありがとうございました！

参加者内訳 参加者 19名

| | |
|-----------|----------|
| ■ 栃木県 6名 | ■ 島根県 6名 |
| ■ 東京都 2名 | ■ 茨城県 1名 |
| ■ 和歌山県 1名 | ■ 兵庫県 1名 |
| ■ 香川県 1名 | ■ 長崎県 1名 |



分科会を振り返って

今回のテーマは「神々が選んだパワーの水と伝統を活用した地域づくり」。まずは、「日本武尊伝説」が残る「行藤神社」をご案内した後、本日のメインテーマでもある「延岡三蔵協議会」の取組が紹介された。清酒・焼酎・地ビールという酒蔵メーカーの三社。皆、切磋琢磨しつつも地域と連携した活動等にも積極的に参加するなど、地元の活性化に尽力されている。参加者からの声としては、「宮崎のおおらかで寛容な人柄にとっても温かい気持ちになりました」「通常であれば競合である企業同士が、地域のために手を取り合っているような取組が多く、横のつながりがとても強固であると感じました」という声をいただいた。



海がつなぐ“ひなた”の Mellow Life



分科会の概要

テーマは「海がつなぐ“ひなた”のMellow Life」。これは海に関する人の「Mellow Life」にスポットを当て、地域資源の幅広い活用と、活性化の取組について発信すると共に、様々な体験を通じて、その理解を深める機会を創出するというもの。「藻場の再生」のセミナーでは、ウニを除去している話や「DX化」や「体験型観光コンテンツ」などを推進されている話を伺った。「日向岬」では人気の「願いが叶うクルスの海」と「馬ヶ背」を見学した。太平洋を一望できるところになっているので、すごく参加者の方も楽しんでおられた。宿泊ホテルでは「ひよっこ踊り」の体験会も行った。翌朝6時前ぐらいから、「禊」と「マインドフルネス体験」を行った。次に「日向市駅まちづくりセミナー」が行われた。日向市駅は地



禊体験スタート前

元産の杉がふんだんに使われた温かいデザインや駅前広場の設置により、市民が主体となって活動ができるエリアが完成している。今回の分科会で日向市は「細島地区やひよっこ」など、歴史的、文化的な要素が見られるが、この伝統を途絶えさせてはいけないと感じたという声が上がっていた。

分科会スケジュール

- 1日目 11月2日(土)**
- 9:15 宮崎駅東口 集合・出発
 - 10:30 セミナーⅠ
Stairs of the sea (サーファー・ワーケーション)
 - 12:00 昼食 (Fuego)
 - 13:00 セミナーⅡ (藻場再生・漁師)
 - 14:30 日向岬見学
 - 15:40 フォトミッション (細島地区)
 - 17:30 ひよっこ踊り体験
 - 18:00 夕食交流会
- 2日目 11月3日(日)**
- 6:00 禊 or マインドフルネス体験
 - 9:00 朝食後、出発
 - 9:30 日向市駅(まちづくりセミナー)
 - 11:00 みなとオアシスほそしま (各自昼食)
 - 13:15 宮崎駅
 - 13:25 全体会会場到着



STAIRS OF THE SEA

ワーケーションについてのセミナーを開催。日向市は国内における「サーフィンの聖地」として知られており、近年では「ワーケーション」の国内先進地域としても有名になってきている。サーフィンなどの地域資源とワーケーションを合わせた新たな取組などが紹介された。参加者からは国内と海外のワーカークの数の割合などの質問が上がっていた。



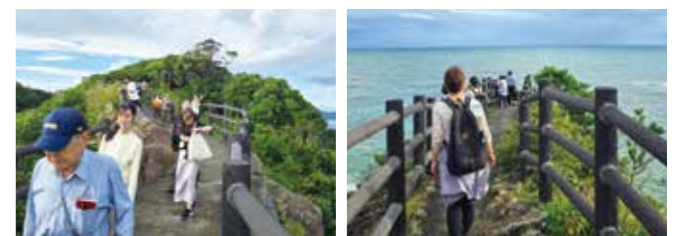
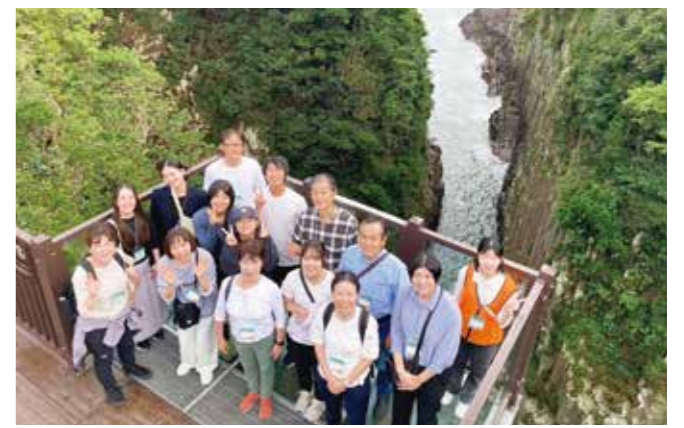
Guest House & Beach Café Fuego

お待ちかねの昼食には、4日間煮込んだ特製カレーライス、日向豚のスペアリブを薬膳スープで煮込んだシンガポールバクテー、日向鶏のローストチキンライスの中から選んでいただいた。昼食後は「サステナブルに海と生きる」と題してセミナーを開催。藻場再生の取組や日向での定置網漁など、皆さん積極的に聴かれていた。



願いが叶うクルスの海

柱状岩が波の侵食で東西200m、南北220m、高さ10mにわたって裂け、十文字(クルス)に見えることからこう呼ばれている。十字に割れた岩の外に、小さな岩場があり、合わせると「叶」の字に見えることから、ここで祈りをささげると「願いが叶う」とわれている。



馬ヶ背展望所

2022年4月、日向岬・馬ヶ背の断崖絶壁に完成したガラス張りの展望は、足元の断崖絶壁が透けて見えるのでスリル満点。さらに先端の岬の突端から太平洋が一望できるので、参加者の方も非常に楽しんでおられた。

夕食交流会

宿泊場所である「プレゼント日向」にて夕食交流会が行われた。施設近くには「藻場」があり、チェックイン時に見学。交流会開始前には「橘ひよっこ踊り保存会」による「ひよっこ踊り」の指導！交流会場までのホテルの廊下がステージ。お待ちかねの交流会での夕食は焼き魚や刺身など、日向の海産物が勢揃い。料理以外では、特産品の「へべす」を使った焼酎割りが人気。参加された日向市の西村賢市長からの挨拶や、参加者の民謡の披露など盛大な夕食会であった。



禊・マインドフルネス体験

朝6時前ぐらいの早朝から、「禊」と「マインドフルネス体験」を行った。「禊」は海や川などで体を清める行為のこと。そして「マインドフルネス体験」は瞑想をしながら自分自身に向き合い、ありのままを体感するというもの。朝から禊や瞑想をして、とても心地よい日向の朝を体験をすることができた。



おおみ 大御神社 参拝

地元では「お伊勢さま」と呼ばれ親しまれている大御神社。厳粛な空気の中、両グループともに参拝をしていただいた。大海原を見渡す絶景の柱状岩上に建つ大御神社は、古くは天照皇太神宮といわれ、地域住民の心のよりどころにもなっている。



まちづくりセミナー

2006年に日向市駅がリニューアルされたが、地元耳川流域の杉がふんだんに使われた温かいデザインは全国でも有名。市民が主体となって活動ができる駅前広場。日向市のハード、ソフト両面の魅力が溢れる印象的なセミナーだった。



みなとオアシスほそしま

全国にある「みなとオアシス」は、にぎわい交流拠点として活用されるよう国土交通省港湾局によって登録されている。細島捕れの魚介類は勿論、日向を感じられる空間になっている。ご家族連れでもゆっくり楽しめると評判。各自昼食、買い物を楽しみ、たくさん土産も買っていただいた。

分科会全体を通して



参加者アンケート紹介

- 何より日向の皆さんの日向愛を感じました。とにかく温かく迎えていただきました。本当にありがとうございました。
- 参加してよかった。
- 居住地でもサーフィンができる海が身近な地域なので、ワーケーションも藻場再生も大変参考になりました。
- 藻場再生セミナー、禊体験が特に良かったです。
- ワケーションでは、今ある地域の社会資源（建物や地域の人々）を活用しつつ、様々な方に関心を持ってもらえるような取組をしていたことが参考になりました。
- 暖かいところ、サーフィンのスポットというイメージでしたが、実際訪れてみて、実に「食が豊か」と実感しました。

参加者内訳 参加者 18名

| | |
|-----------|-----------|
| ■ 栃木県 4名 | ■ 島根県 3名 |
| ■ 和歌山県 2名 | ■ 鹿児島県 2名 |
| ■ 埼玉県 1名 | ■ 東京都 1名 |
| ■ 大阪府 1名 | ■ 兵庫県 1名 |
| ■ 香川県 1名 | ■ 長崎県 1名 |
| ■ 沖縄県 1名 | |

分科会を振り返って

海を楽しむ人・海を守る人・海と生きる人の「Mellow Life」にスポットを当て、地域資源の幅広い活用と、活性化の取組について発信すると共に、様々な体験を通じて、その理解を深める機会を創出するというテーマで進められた分科会だった。日向市はサーフィンが有名で、全国からの移住者も多く、新しい文化を取り入れたり、若い人が入ってきて刺激がある。参加者から「日向市は歴史的、文化的な要素が見られるが、この伝統を途絶えさせてはいけないと感じた」という声も上がっていた。他の参加者からは「デジタルノマド」などを学び、場所を選ばずに仕事をするこの可能性を感じたという感想もあった。



サッカー+地域おこし協力隊=地域づくり



分科会の概要

サッカーチーム「テゲバジャーロ宮崎」と「ヴィアマテラス宮崎」が児湯地域経済の活性化を大きく促進したものと話を聞いた。新富町では「スマートインターチェンジ」が整備されることが決まるなど、サッカーを中心に、地域の発展に大きな影響を与えている。新富町の小嶋町長は「well-being（幸福）」というのが町づくり中心にあると言われている。こういった取組が、「自分らしさ、地域らしさ」というものを追求できるような内容になっているのではないかとと思われる。「ヴィアマテラス宮崎」代表の秋本さんによる講話も参加者にとって興味深いものであった。2日目は「都農神社」に参拝に行き、「都農ワイナリー」で、お昼をいただいた。児湯地域には地域おこしに積極的な団体が多く、様々な意見を取り入れたアプローチを行っているが、地域内の町村のつながりが薄いようにあったので、そこが課題として挙げられた。



選手との交流



都農神社

分科会スケジュール

1日目 11月2日 土

- 9:00 宮崎駅東口 集合・出発
- 10:00 新富町の取組講話
(新富町フットボールセンター)
- 11:00 スタジアム見学等
- 12:00 昼食
- 13:00 地域おこし協力隊活動紹介
- 17:00 ホテルチェックイン
- 18:00 夕食交流会

2日目 11月3日 日

- 8:20 ホテル 出発
- 9:00 都農神社参拝
- 9:40 都農ワイナリー
都農町の取組講話
- 11:10 道の駅「つの」(各自昼食)
- 13:10 宮崎駅
- 13:20 全体会場到着

小嶋崇嗣町長の講話

新富町の小嶋崇嗣町長より「well-being（幸福）な町を目指して」と題した講話をいただいた。町づくりを進めていくための仕掛けとして、ヴィアマテラス宮崎に就職先を紹介する事例を話された。この取組が「自分らしさ、地域らしさ」を追求できる内容になっていると、参加者からの感想もあった。



新富町フットボールセンター見学

「いちご宮崎新富サッカー場」はヴィアマテラス宮崎のホームスタジアム。同チームは2024年までJリーグ1部において見事に優勝したチーム。地域密着型のチームとして、地域とクラブが連携して選手がサッカーに打ち込める環境が強さの要因である。



昼食 (カフェレストラン Hatsune)

富田浜近くのカフェレストランにてビュッフェスタイルの昼食。地元の野菜を始め、新鮮な食材を使った料理の数々に参加者は満足されていた。パリエーションに富んだ席に座ったり、外の空気をお楽しみいただけるテラス席を自由に選べるのも嬉しい。



地域おこし協力隊活動報告

新富町総合交流センターきらりにて、地域おこし協力隊の活動紹介や質疑応答があった。「ヴィアマテラス宮崎」代表の秋本範子さんより、「100年先も続く地域とクラブ」と題した講話があり、一生懸命頑張る女性を応援しようという、新富町との連携の話をされた。都農町企画課の一政幹人さんより、地域おこし協力隊について、一般社団法人ツノスポーツコミッションの石原代表理事、株式会社JFC宮崎の鳥原総務部長より、地域おこし協力隊の活用についての講話があった。参加者はクラブチーム主体の「地域おこし」についてかなり関心を寄せていた。





夕食交流会

宿泊先の高鍋町「ホテル四季亭」にて交流会を開催した。まずは都農町坂田広亮町長より挨拶があり、「ヴィアマテラス宮崎」の選手も参加していただき、ダンスの余興を行うなど盛り上がりを見せた。新鮮な野菜や特産品を使ったメニューが会場を彩り、交流もあり、参加者の満足度は高かった。



この 都農神社参拝・都農町長あいさつ

神武天皇が国土平安を祈念したと伝わる神社を参拝。格式の高い「日向国一之宮」に位置付けられた神社はパワースポットとして名高く、鎮守の森に囲まれた広い境内には神秘的で厳かな雰囲気が漂っていた。都農町長の挨拶もあった。



この 都農ワイナリーにて パネルディスカッション&昼食

数々の賞を受賞している都農ワイナリーにて、「ツノスポーツアカデミー」と「都農町地域おこし協力隊」の取組に関する講話があった。昼食には同ワイナリー内「TSUNO FARM CAFE」の手作りパンのプレートを用意されていた。



分科会全体を通して



参加者アンケート紹介

- 自分の地域の協力隊制度の活用がうまくできてなく、サポート体制の重要性が身に染みました。
- 地域に受け入れられている要因として選手の方の明るさがすごくあるというのが実際に会うことで感じる事ができた。地域への入り方などの方法も参考になったが、地域密着型は競技力だけでなく応援される人柄が大切だということが再認識できた。
- スタッフの皆さんの仲が良く、当日まで積み重ねてきた信頼関係が見えてステキでした。

参加者内訳 参加者 23名

- 島根県 6名 ■ 福井県 3名
- 長崎県 2名 ■ 鹿児島県 2名
- 北海道 1名 ■ 青森県 1名
- 栃木県 1名 ■ 群馬県 1名
- 東京都 1名 ■ 石川県 1名
- 和歌山県 1名 ■ 福岡県 1名
- 熊本県 1名 ■ 宮崎県 1名

分科会を振り返って



新富町では「スマートIC」が整備されることが決まったり、最寄りの国道が4車線化されたりと、サッカーを中心に、地域の発展に大きな影響を与えている。新富町長は「well-being (幸福)」というのが町づくり中心にあるとおっしゃっていたが、こういった取組が、まさに「自分らしさ、地域らしさ」というものが追求できるような内容になっているのではないかと思います。今後児湯地域がどのように変わっていくのか、移住者を増やすためには何をすればいいかなど、今回、学んだことをまちづくりに役立てたいと思える分科会だった。



行政や地元住民、移住者、学生、 さまざまな人が参加するまちづくり



分科会の概要

1日目は「江田神社」、「野島神社」、「青島神社」の3社を巡る行程からスタートした。「江田神社」と「みそぎ池」では、神話の話をボランティアガイドより聞くことができた。「青島神社」では、青島地区の発展に関する話を長友宮司から聞き、地域活性化のモデルの1つになっているのではないかと感じた。また、「とんとところ地震紙芝居」、「うずら車絵付け体験」、「地域のお宝発見かるた遊び」という3つの貴重な体験を通して歴史文化・伝統の大切さを参加者は感じられたようだ。2日目は「NPO法人宮崎文化本舗」の取組について知り、中間支援組織として人と人そして団体をつないでいき、社会課題の解決に向けて取組んでいるということが印象的であった。最後に国登録有形文化財に指定されている「宮崎県庁本庁舎」を見学した。参加者の方からは、宮崎の人の温かさや「おもてなし」だけでなく、その1歩先にある熱い思いを持った人が多いという声をいただいた。他にも、地域資源を生かした「町づくり」には、小さなことから始めていく、地域の「キーパーソン」の重要性を知ることができたという意見をいただいた。



AOSHIMA BEACH PARK

分科会スケジュール

1日目 11月2日(土)

- 8:15 宮崎駅東口 集合・出発
- 8:45 神話と昔話のルーツを巡る
- 11:00 日南水産にて昼食
- 12:30 3つの体験×青島まち歩き+α
- 16:00 大学生×まちづくり報告
- 16:45 ホテルチェックイン
- 18:00 夕食交流会(鬼扇)
- 20:15 星空の下、青島神社元宮を巡る

2日目 11月3日(日)

- 7:00 早朝のヨガ体験(希望者)
- 9:00 ホテル前集合・出発
- 9:30 NPO 中間支援の取組紹介
 - ・宮崎キネマ館
 - ・みやざきアートセンター
 - ・宮崎県庁本館
- 12:10 宮崎駅(各自昼食)
- 13:10 全体会会場到着

1日目 11月2日(土)

江田神社参拝・みそぎ池見学

宮崎市神話・観光ボランティアガイドの案内により、江田神社参拝とイザナギノミコトが禊をされたという「みそぎ池」を見学。大雨で移動が大変だったが、宮崎の歴史ロマンを感じていただいた。



野島神社 参拝

河野権禰宜より講話。野島地区のまちづくり活動の話に耳を傾けていた。浦島太郎伝説が残る神社については、初耳の方も多かったようで、興味津々であった。



日南水産にて昼食

2021年9月に土砂災害に逢い休業していたが、昨年4月に営業再開した日南水産で、新鮮な海の幸が丼を覆う「海鮮丼」に舌づつみ。皆さま満足されていた。「夕食は何か？」と夕食の話をされる方もいた。



青島神社 参拝

神話「海幸彦・山幸彦」の舞台であり、山幸彦と豊玉姫が結ばれた地でもあることから、縁結びにご利益があるとされている「青島神社」。長友宮司より神社について詳しい話があり、参加者は神話の国・宮崎を再認識された。

うずら車絵付け体験

1200年以上の歴史があると伝わる国富町の郷土玩具「法華嶽うずら車」。1983年に県の伝統的工芸品に認定されている。短い時間ではあるが「絵付け体験」を実施することができた。



地域のお宝再発見かるた

宮崎・東諸県ブロック内の市町をテーマにしたかるた。このかるたには、地域の名所や旧跡、文化遺産など、子どもと一緒に訪れたい場所が紹介されている。各札には、子どもが写った写真と、詳しい情報を確認できるQRコードもあり、遊びながら地域の魅力を再発見できるなど、体験した方々からは、「子どもにもわかりやすい」と大好評であった。





とんところ地震紙芝居上演体験

江戸時代前期に日向灘で発生した「外所（とんところ）地震」は、M8級の巨大地震。この地震をテーマにした紙芝居を通じて、県民の防災意識向上へと取り組んでいる。

大学生による「まちづくり活動」報告

宮崎大学地域資源創成学部3年の天島さんによる活動報告。大学1年生の時「青島学生プロジェクト」を結成し、現在、宮崎を代表する観光地・青島をイベントやボランティア活動を通して盛り上げた学生。



夕食交流会

磯料理 「鬼扇」にて開催。宮崎自慢の宮崎牛、地鶏炭火焼、めひかりの唐揚げ、冷や汁など、参加者は歓声を上げ、箸が進む宴であった。



夜のオカリナ演奏（青島神社）

宮崎市在住の甲斐さんによるオカリナ演奏の世界へ。心地良い音色と甲斐さんのおしゃべりに皆惹かれ、演奏後は、青島神社の元宮を訪れた。ここからは弥生式土器、獣骨等が出土し、古い時代から小祠があり、祭祀が行われたものと推定されている。

早朝のヨガ体験

宮崎県内各地の介護施設、スポーツクラブ、企業、個人など、幅広い年代に向けてヨガレッスンを開催中の横山さんによるレッスン。



宮崎県庁見学

国登録有形文化財に指定されている宮崎県庁本庁舎の見学ツアー。ボランティアガイドが宮崎県庁の成り立ちや魅力を解説し、参加者からは「歴史を感じ、タイムスリップしたみたいです」など、様々な感想があった。



NPO中間支援の取組紹介

主催者の石田理事長による講演。「宮崎キネマ館」は日本で初めてNPO法人が運営する映画館。「みやざきアートセンター」は、市民活動の場として活用できる施設。環境保全や子どもたちの未来についての話など、参加者は熱心に聞き入っていた。



参加者アンケート紹介

- 第5分科会で神話を感じることでできる神社や施設を訪問することができたが、まだまだ宮崎には数多くの神話の地があるので、訪れたい。
- 地域の良さを磨こうとする思いや取組内容をお聞きできたこと、その成果ともいえる青島の魅力を堪能できました。
- NPO 法人の話は、我々の活動と少しだけ重なる部分もあったので、どのように財源を確保するかなど参考になりました。
- 地域の特性、特徴をまず把握することが重要であることを学んだ。
- 神社の宮司、映画館の館長、大学生という立場でそれぞれ町のことを考え行動する姿から、町のことを考え、小さなことでも行動することで、どんな立場からでもまちづくりは出来るということを学びました。

参加者内訳 参加者 29名

- 島根県 7名
- 栃木県 5名
- 香川県 4名
- 長崎県 4名
- 東京都 2名
- 和歌山県 2名
- 青森県 1名
- 埼玉県 1名
- 兵庫県 1名
- 福岡県 1名
- 大分県 1名

分科会を振り返って

第5分科会では神話にまつわるスポットを実際に見ることができ、伝統を継承できる資源になっていくのではないかと考えた。参加者の声としては、この地域資源をどのように活用していくかというところで、様々な意見があった。そして、地域資源を生かした「町づくり」が行われていたこと、小さなことから始めていく、地域の「キーパーソン」の重要性を知ることができた。参加スタッフからは、宮崎で地域づくりを頑張る人と魅力を再発見できたこと、地域づくりへの思いを持っているけど、なかなか行動に移せていない人が、まだまだいるのではないかと課題も出てきた。



地域の資源(人・もの・自然)を活かした 協働のまちづくり ～新たな担い手づくり



分科会の概要

1日目の午前は、えびのエコミュージアムセンター・足湯の駅えびの高原で霧島ジオパークを活かした地域振興や観光拠点としての取組について学び、昼食を囲みながら2人の地元の方に地域づくりに向けた熱い思いを聞いた。午後からの研修会では、西諸県地域で活躍する3人の方によるパネルディスカッションがあった。2日目は日本初の国立公園に指定された「霧島錦江湾国立公園」内にある火口湖「御池」を散策。ガイドの方より「高千穂峰」の説明や周辺の神社の話聞いた。神武天皇の御生誕の霊跡に創建されたのが創祀といわれている狭野神社では奴踊りを観賞したり住職から地域と一体となった取組の話をついた。最後は商店街活性化をめざし、本屋を事業承継し、新たな展開に取り組んでいる方の話を聞くことができた。2日間とおして「新たな担い手づくり」に必要な学びを得られた意義深い2日間となった。



交流会場での鏡開き



高原町キャラクター「たかぼー」と

分科会スケジュール

1日目 11月2日

- 7:10 宮崎駅東口 集合・出発
- 10:00 えびのエコミュージアムセンター
- 12:30 昼食
(アウトドアステーションえびの) 買物(道の駅えびの)
- 14:30 研修会: パネルディスカッション
グループワーク (KITTO 小林 2F)
- 17:00 ホテルチェックイン
- 18:00 夕食交流会

2日目 11月3日

- 8:00 ホテル 出発
- 9:00 御池、高千穂峰の観賞
- 9:40 狭野神社参拝・講話
演舞披露
- 11:00 昼食 (Café みなづき)
- 13:10 宮崎駅
- 13:20 全体会会場到着

白鳥神社 参拝

えびの高原へ向かう途中にある神社。村上天皇の時代(946～967年)に性空上人が創建したと伝えられている。秋になると、神社の鳥居横の樹々が色鮮やかに紅葉し、参拝客を出迎えてくれる。近くには歴史ある白鳥温泉下湯・上湯があり、参拝と併せて立ち寄る方も多いという説明があった。



アウトドアステーションえびので昼食

アウトドアステーションのスタッフの岡園さんにより地域への熱い思い、職場を通じた取組について話を聞いた後、えびの市内の「川畑商店」の特製お弁当で昼食。えびの米のおにぎりや色とりどりの地元の食材によるおかずが盛り付けられていた。店主の川畑博志さんがUターンしてえびの市を盛り上げるために頑張っている話を伺いながら食べるお弁当は、「一段と美味しく感じられた」という感想もあった。



えびの高原・えびのエコミュージアムセンター・足湯の駅えびの高原

当初の「えびの高原」の自然や山々の景観を味わう散策は悪天候のため予定を変更。まず、えびのエコミュージアムセンターの須田さんより霧島ジオパークの紹介とえびの高原と周辺の自然や霧島の山々の景観等、自然散策の楽しみ方について話があった。続いて(一社)霧島コネクトの代表理事の笠島さんより霧島ジオパークの地域の魅力を活かしつつ、えびの高原の地域振興及び観光拠点としての価値を高めるための取組についてお話いただいた。



小林市地域・観光交流センター KITTO 小林

BRIDGE the gap 代表の青野さんがファシリテーターとなり、新たな担い手づくりをテーマにしたパネルディスカッションを開催。3人のパネリストが各々、UI ターンに至る経緯や取組の状況などを紹介した。三者とも「地域を変えたい」という強い思いのもと、「地域のビジネスのあかりを消さない」、「儲かる、という背中を見せる」という取組への姿勢や「新たな担い手の横のつながりが大事」、「地域の人と腹を割って話す(関係性をつくる)～地域に相談できる窓口をつくる」という「交流の場」を創出することが大事であるということ、「資源に対するストーリーを学ぶ」ということ等、これからの地域づくりに役立つ話を伺うことができた。



夕食交流会

宮原義久小林市長による挨拶から始まり、和やかな雰囲気の中、交流会がスタート。会場にはチョウザメのカルパッチョ、ローストビーフ、小林フィッシュ（鯉）など、地元食材を目で舌で楽しむ料理が並び、司会者の絶妙な進行のもと参加者との情報交換で大盛り上がり。有意義で楽しい時間となった。



みいけ 御池散策

御池は、日本初の国立公園に指定された「霧島錦江湾国立公園」内にある火口湖。当日は高原町観光協会の有馬さんの案内により、「高千穂峰」の説明や山周辺の神社の話、天孫降臨神話に聞き入る参加者たちだった。



さの 狭野神社・奴踊り

神武天皇の御生誕の霊跡に創建されたのが創祀といわれている神社。神武天皇の幼名は狭野尊（ササノミコト）と奉称し、狭野の地名によるものといわれている。奴踊りは五穀豊穡の祝いの踊りで、女性のみという希少性と早い動きの連続の踊りに目を奪われていた参加者たちだった。この後、副住職から地域と一体となった活動とその意義を語っていただいた。



Cafe みなづき (講話・昼食)

「みなづき」の石崎社長より講話があった。高原町の商店街が寂れていく中、昔よく通っていた本屋の閉店話を聞き、事業承継ができないかと考え、本屋としてではなく人が集まる飲食店としての形態で事業展開することになったとのこと。店内のフリースペースでは、子どもたちが学校帰りに宿題をしたり、多様な会合に利用できるようなデザインに。現在、福祉関係の事業も行っており、障がい者がお店の運営を行えるような仕組みを考えているとの話もあった。



メインメニューは、ハンバーグということで、地元の野菜などを添えて、食べやすいようにワンプレートで提供された。他にも、猪でだしをとったうどんやローストビーフのにぎり寿司という特別メニューも出され、ボリューム満点だった。あっという間に完食する参加者たちだった。



分科会全体を通して



参加者アンケート紹介

- さまざまな方が心のこもったおもてなしをしてくださって、豊かな自然とみなさんの温かなお人柄もあり、宮崎が大好きになりました。ありがとうございました！
- ちょっと事例発表の時間が長かったです。
- 地元産にこだわった料理は最高でした。
- えびの高原では天候が悪くトレッキングできなかったのが残念でした。えびのエコミュージアムセンターでの講義では室内が寒かった。何より景色が見えなかったのが残念でした。
- 台風で、えびの高原散策ができなかったのが残念でした。地域の資源(人・モノ・自然)を活かした協働のまちづくり、新たな担い手づくり～実現されていて自分たちも頑張りたいと感じました。

参加者内訳 参加者 20名

| | |
|-----------|----------|
| ■ 栃木県 4名 | ■ 島根県 4名 |
| ■ 熊本県 4名 | ■ 長崎県 3名 |
| ■ 鳥取県 2名 | ■ 兵庫県 1名 |
| ■ 和歌山県 1名 | ■ 沖縄県 1名 |

分科会を振り返って

地域を変える、自分の地域を盛り上げたいという思いを形にするために「新たな担い手」の存在は重要である。この「新たな担い手」を育てるには熱意と地域との対話を大事にしながら作り上げる仕組みが必要である。資源を活かすことは大事なことであるがそれを活かすための「ストーリー」が必要で、それをしっかり説明できる人材(担い手)がいて、その担い手同士がお互いのさまざまな取組やその方法を共有するようつながりをつくることも重要であることも実感できる分科会となった。



「肉と焼酎」



松山牛舎 視察

代表の松山龍二さんは牛の削蹄師でもあり、普段は牛の肥育を行うとともに、都城内にある他農家の牛の削蹄も行なっている。牛舎内は糞尿の臭いも少なく、清潔な牛舎であった。また極少数のグループを対象に出張BBQなども行なっており、夜の夕食交流会では実演も兼ねて参加された。

柳田酒造 視察

柳田酒造の工場敷地内には霧島山系の恩恵である「霧島裂罅水」が湧き出ており、この水もまた良い焼酎造りには欠かせないとのこと。柳田酒造では新しい焼酎造りの取組として「オレンジ系」の芋を使った焼酎を現在、試験的に製造しているとのこと。工場見学の最後は参加者おまじかへの焼酎の試飲を楽しんだ。

分科会の概要

第7分科会のテーマは、「肉と焼酎」。最初に訪れた場所は「松山牛舎」。こちらのお肉は日本で、A5ランクの中でも最高級の品質を誇っている。ここでは飼料に対する強いこだわりや牛に対する強い愛を感じた。「柳田酒造」では、芋の貯蔵方法や、焼酎の原材料に強いこだわりを持っていたことに参加者が感心されていた。続いて「霧島酒造秋祭り」の視察を行った。視察後に江夏社長からお時間をいただき、話を聞かせていただき、社長自身の自社の製品に強い自信や「愛」を感じた。夕食交流会では参加者念願のA5ランクの肉をご賞味。「すごく美味しかった」という意見が多かった。それから皆さんとお酒を交わしながら話をする中で、地元への愛や、地域への愛が強く感じられた。今回の2日間で「焼酎への愛」や「地域への愛」、「料理と焼酎の相性の愛」。それから「人との出会いの愛」など様々な「愛」を感じることができたと思う。

分科会スケジュール

- 1日目 11月2日**
- 8:00 宮崎駅東口 集合・出発
 - 9:00 【視察】松山牛舎・柳田酒造
 - 11:00 昼食・霧島酒造秋まつり
 - 13:00 人力車体験搭乗・まちなか散策
 - 14:00 【シンポジウム】肉と焼酎
 - 17:00 ホテルチェックイン
 - 18:00 夕食交流会
肉と焼酎「マリアージュ」
- 2日目 11月3日**
- 9:00 ホテル 出発
 - 10:00 道の駅都城 NiQLL
 - 11:00 全体会場へ出発
 - 12:00 宮崎駅（各自昼食）
 - 13:10 全体会場到着

昼食

あいにくの雨予報ということもあり、霧島ファクトリーガーデン近くの「きりしま たけのこ こども園」にて昼食。牛串・豚汁に皆さん満足されていた。



「霧島酒造」代表取締役社長、江夏順行さんがサプライズ登場

霧島酒造秋まつり

霧島ファクトリーガーデンで開催されている「霧島酒造秋まつり」に参加。途中、霧島酒造の江夏社長がサプライズ登場し、社長就任来の苦労話などをされる。また、売り出し中の焼酎「SUZU KIRISHIMA」をプレゼントでいただき、バス内で急遽お土産争奪ジャンケン大会をし、参加者も喜んでいました。



交流会にて

人力車体験



人力車体験・街中散策

ウエルネス交流プラザにて、「みやこんじょ力俵組合」による人力車体験、及び周辺の街中散策を行った。人力車は初体験の方も多く、楽しんでいた。

シンポジウム「肉と焼酎」

シンポジウム前半は都城・北諸県ブロック長の中村光彦さんと有限会社「観音池ポーク」社長の馬場通さん、柳田酒造の柳田正社長、「どんぐり1000年の森をつくる会」事務局長の徳永貢さんによるセッション形式にてシンポジウムが進み、馬場通さんの事例を中村光彦さんが引き出す形で進行していった。



左から有限会社「観音池ポーク」代表取締役 馬場 通さん、肥育農家「松山牛舎」松山 龍二さん、合名会社「柳田酒造」代表 柳田 正さん

夕食交流会

ウエルカムドリンクは霧島酒造の焼酎「SUZUKIRISHIMA」の炭酸割り。シャンパンのようで、おしゃれであった。いろんな料理と焼酎があり、参加者同士が互いの組み合わせをシェアし、都城の食文化を楽しむ様子が見られた。こうした交流は、地域の魅力を伝えるための企画としては大成功であった。



柳田酒造の焼酎争奪ジャンケン大会 末永雄大さんの都城歴史講座



松山龍二さんの美味しいBBQ実演 参加者による食の採点も

道の駅都城 NiQLL

キッチンスタジオでの館内の説明の後、館内を周りながら焼酎BAR、観光案内所、売店などの案内をしていただいた。精肉コーナーでは、都城市内ではここでしか買えない松山さんのお肉などが販売されており、焼酎の銘柄も豊富に取り揃えられていた。道の駅の職員の方の案内が親切で好評であった。



参加者アンケート紹介

- とても素晴らしい分科会でした。
- 参加者の名簿は交流のためには必要だと思います / 分科会までの移動時間に参加者の紹介をすればよかったのでは / 次回開催のPRの時間を取る必要があると思います。
- 時間が空いた時に分科会参加者の活動紹介などがあれば参加者の今後の交流に繋がりとっても良かったと思います。
- 分科会交流会は、お店が広く、席と席の間隔が空いていたため、色んな方と話す機会がとりづらかったです。肉と焼酎は最高でした。都城市、素晴らしいです。

参加者内訳 参加者 38名

- 栃木県 9名
- 長崎県 7名
- 島根県 5名
- 宮崎県 4名
- 東京都 3名
- 熊本県 3名
- 埼玉県 1名
- 石川県 1名
- 和歌山県 1名
- 大阪府 1名
- 鳥取県 1名
- 福岡県 1名
- 沖縄県 1名

分科会を振り返って

今回の2日間で「焼酎への愛」、「地域への愛」、「料理と焼酎の相性の愛」、それから「人との出会いの愛」など様々な「愛」を感じることができた分科会だった。運営側では都城市の魅力の伝え方の難しさや、ネットワークの強さを身にしみて実感した。また、参加された皆さんから「都城で良かった」、「肉と焼酎最高」という声を何度もいただき、地元へ愛着を持つことができたスタッフも多かった。そして「郷土愛・地域づくり愛」を感じた「愛」いっぱい分科会になったのもまた皆さんのお陰だと思ったという声もあった。



日本唯一の野生馬ツーリズムと シャッター商店街の軌跡



分科会の概要

第8分科会のテーマは「300年以上ずっと変わらない地域と、変わることを余儀なくされた地域」。まずは「酒谷支所」、「道の駅酒谷」を訪れ、日高さんより講話をいただいた。参加者より「道の駅づくりに地域住民が参加しているところが素晴らしい」という意見があった。老舗蒲鉾店の「川畑商店」では実際に蒲鉾を作る体験をさせていただいた。「都井岬」では絶景と間近で馬を見ながら、野生馬の生態の説明を聞いた。夕食交流会では、参加していただいた方々の地域に対する思いというものも感じることができて大変良い会になった。2日目は「油津yotten」に行き、ブロック長の島中さんから講話をいただいた。「再生ではなく、生まれ変わるという言葉が印象的だった」という意見があった。最後に宮崎に住んでいるからこそ、感じられなかった魅力や価値があるということを確認できた。そして地域づくりにおいて、地域に対する愛情・情熱、地元の誇りといった心の部分が重要であることが分かった。



都井岬の野生馬



油津商店街の散策

分科会スケジュール

1日目 11月2日(土)

- 7:25 宮崎駅東口 集合・出発
- 8:25 日南市役所酒谷支所
- 9:25 道の駅酒谷にて買い物
- 10:40 かまぼこづくり体験
- 12:00 昼食(大乃屋)
- 13:00 なないろ路面電車
- 14:10 都井岬 野生馬の生態観察
- 17:15 ホテルチェックイン
- 18:00 夕食交流会

2日目 11月3日(日)

- 7:00 ホテル 出発
- 7:55 朝食(湯浅豆腐店)
油津商店街視察
- 8:30 油津 Yotten にて講話
- 10:50 道の駅フェニックス
- 12:10 宮崎駅(各自昼食)
- 13:20 全体会場到着

1日目 11月2日(土)

日南市酒谷地区の講話(日南市酒谷支所)

やちみろかい酒谷代表の日高茂信さんの講話。酒谷地区の取組についての話があった。棚田やダムがある地域の紹介、集落の活性化を目指し、道の駅の誘致、完成とその後の流れと取組、名物の草だんごなどの紹介などがあった。

道の駅酒谷

酒谷地区の道の駅酒谷に立ち寄り、日高茂信さんの物産説明を聞きながら、それぞれが買い物を楽しんだ。名物の「草だんご」を買い求める人が多かった。



かまぼこづくり体験(川畑蒲鉾店)



手作りにこだわった製法など、川畑蒲鉾店で蒲鉾の説明を受け、すり身作りを体験。そのすり身を使用した天ぷら蒲鉾「龍眼」を受け取り、その場で食した。

昼食(大乃屋)

串間市で水揚げされた新鮮なブリや旬の野菜を使用したご当地グルメである「串間活メブリぶり丼」を「大乃屋」で楽しんだ。参加者はその美味しさとボリュームに大変満足しながら、1,200円という低価格に驚く参加者たち。



路面電車での地域活性化の取組

JR串間駅横にある「なないろ路面電車」を視察。広島電鉄の路面電車を2023年に移設したもので、鈴木博也さん、鈴木奈々さん、本川理恵さんより話をいただいた。ここでは駄菓子や地元物産品の販売をしており、Youtubeでの動画配信も行っている。



都井岬での野生馬の生態観察

国の天然記念物に指定されている「御崎馬(みさきうま)」についてガイドの世良田明呼さんより話を伺う。「馬の視界は350度もあり、正面を向いたまま自分の後ろ足まで見えます。後ろから近づくのは絶対におやめください」という話に驚かされていたようだ。その後、歩いて高台に上がり、都井岬の景色を一望できる絶景を堪能してから全員で記念撮影を行った。



都井岬灯台見学

昭和4年建設、宮崎県最南端かつ日南海岸国定公園の最南端の名所にある灯台。訪れたこの日が156周年灯台記念日のイベントで、海上保安庁による特別公開が行われているというタイミングであった。入場無料で灯台に入ることができ、通常は非公開の灯台レンズも公開されていた。



都井岬観光交流館 PAKALAPAKA

秋田優さんによる「御崎馬」にまつわる講話。館内にてプロジェクターを使用し、秋田さん本人の御崎馬との出会いと現在に至るまでの様々な歩みや、江戸時代から串間市の広範囲で育てられていた歴史、日本在来馬として長年の放牧により徐々に形成された特有の生態などを知ることができた。



参加者アンケート紹介

- とても有意義な研修交流会でした。ありがとうございました。
- 都井岬でガイド付で岬馬を見学でき、とても勉強になり楽しかったです。
- 商店街活性化に対する考え方に学びがありました。
- 地域づくりの話、携わる人の思い、動き方は、どんな地域にも通ずると痛感しました。
- まちづくりのキーワードは、よそ者、馬鹿者、若者と言う実践を学ぶことができました。その根っこ部分は楽しいと言う実践であり、皆さん生き生きとした活動が印象的でした。

参加者内訳 参加者 20名

- 宮崎県 5名
- 栃木県 4名
- 兵庫県 4名
- 島根県 2名
- 熊本県 2名
- 東京都 1名
- 長崎県 1名
- 沖縄県 1名

夕食交流会 (伊予屋)

日高茂信さんをはじめ、路面電車での鈴木夫妻、本川さん、世良田さんなど案内人やガイドも全員参加した他、串間副市長の井手義哉夫妻や崎村真子さんなどの役場職員も一同に集まる夕食交流会となった。食事と交流を行った後、大学生によるクイズ大会、各都道府県参加者グループによる改めての自己紹介など、大いに盛り上がった。



分科会を振り返って

日南・串間ブロックでの活動は、「都井岬」や「酒谷地域」などの自然を大いに感じられる内容、「油津商店街の再生」を再認識するといったプログラムであった。テーマは「300年以上ずっと変わらない地域と、変わることを余儀なくされた地域」。その内容は日南・串間に住んではいらぬが感じられなかった魅力や価値を再認識できる内容であったと思う。地域づくりにおいて、地域に対する愛情・情熱・誇りといった部分が非常に重要であると感じた。また、代々引き継がれてきたことを次の世代に引き継ぐということの大事さも再認識できたと思う。第8分科会に参加された方の地域に対する思いというものと互いに交換できる分科会であった。



朝食 (二代目 湯浅豆腐店)

湯浅俊一オーナーが、油津商店街の活性化プロジェクトの折に呉服店を改築・開店させた店舗はとても居心地よく、朝食の内容も好評だった。



油津商店街にて地域づくり講話

島中星輝ブロック長による油津商店街の歩み紹介。商店街の中にある多世代交流モール「油津Yotten (よってん)」にて、「奇跡の商店街」と呼ばれた、これまでの歩みなどの説明を受けた。地域住民や学生も巻き込んだ取組、単にシャッター街の店を再生したり店舗を作るだけでなく、企業誘致などを行ったことや、広島カーブとの連携の取組などについて学んだ。



全体会フォトギャラリー

開催日時 / 11月3日(日) 13:30~15:30

開催会場 / KITENビル8階 コンベンションホール (宮崎市)



高千穂郷・椎葉山ブロック

第1分科会

第2分科会

延岡ブロック



日向・東臼杵ブロック

第3分科会



宮崎・東諸県ブロック

第5分科会



都城・北諸県ブロック

第7分科会



日南・串間ブロック

第8分科会



第4分科会

児湯ブロック



第6分科会

西諸県ブロック





地域づくり団体全国協議会 会長
西村 幸夫

皆さんこんにちは。
よろしくお祈いします。昨日、一昨日といかがでしたか、昨日は特に分科会8つに分かれていゝんなところに行っ
ていただきました。雨が大変心配されたんですけども、
なんとか午後からは上がって、それぞれの活動ができた
のではないかと思います。

特に宮崎県の皆さんは長い間準備に携わっていただ
きまして、本当にありがとうございます。

台風が来るので、大変心配されたと思いますけれども、
今日は特にこんな素晴らしい天気で、やはり「日本のひな
た」だと思います。

今日は最後の交流会ということで、それぞれの分科会
の成果を共有しようということになります。また、今日は
宮崎大学の若い人たちがプレゼンテーションをしてくれ
るということで、次の世代が、我々の活動に刺激を受け

て、新しい一歩を踏み出してくれることを楽しみにしたい
と思います。

また、今日の交流を通じて、来年は栃木にうかがうとい
うことで、たくさんメンバーが来られているわけですね。
また、この勢いを来年につなげたいと思いますので、最
後の1日になりますけども、どうぞよろしくお祈いいたしま
す。以上です。



宮崎県副知事
佐藤 弘之

皆さんこんにちは。

一昨日の夜に続き挨拶をしております宮崎県副知事
の佐藤と申します。

なんとか天気が昨日の午後からはちょっと回復してき
ましたが、ただ、一方で一部の地域では雨に濡れたり、
霧で何も見えなかったとお伺いしております。本当は今
日の天気が「日本のひなた」というところを見ていただき
たいと思っておりましたが、なんとか最後の一日がこう
いう天候になってよかったです。

各地でいゝんなところを見ていただいたり、体験され
たりしたと思います。一昨日も私は「5つのS」という話を
させていただきました。「食・スポーツ・自然・森林・神
話」という話をしました。おそらく各分科会の中でそれ
ぞれ5つ全部ではなかったかもしれませんが、その中の
いくつかをおそらく体験されたのではないかと思います

すので、ぜひこの宮崎での取り組みとか体験したことを
地元に戻っていただいて、それぞれの地域づくりの
参考に、それから刺激になっていただければいいと思
います。

また宮崎としても、こうやって多くの全国の方が来ら
れて、その話を聞き、いろいろ交流ができたと思います
ので、これを生かしながら本県でもさらなる魅力ある地
域づくりに取り組んでいければと思います。本日のこの
後の報告会を私も一緒に楽しみにしております。

各分科会からの報告、それに通じた意見交換交流と
いうものが実り多いものになりますよう祈念いたしまし
て、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお祈いいたします。





総務省地域力創造審議官

望月 明雄

皆さんこんにちは、地域力創造審議官をしております望月でございます。地域力創造審議官は総務省の中で、地域活性化関係の施策の元締めということで、本日のご挨拶をさせていただきます。

今日は、「第40回地域づくり団体全国研修交流会宮崎大会」ということで、ここから拝見しても皆さんの熱気が伝わってきて、非常に素晴らしいなと感じました。テーマが「きて！みて！よってん！日本のひなた宮崎県」ということでございまして、先ほどから「ひなた」と言われておりますけれども、そういった形での大会になっており、改めて心からお喜びを申し上げたいと思います。

また、いつも皆様方は、我々総務省がまさに目指しております「地域を元気にする活動、地域の活性化の活動」を、全国のそれぞれの地域でしっかりと実践をさせていただいており、改めて感謝を申し上げたいと思います。

本日私は分科会に参加をさせていただき、地域の実際の活動を拝見させていただきました。地域の活動をしていく中で、様々な仕事を10年、20年と継続してできるようにしていくための工夫が見られ、非常に参考にさせていただきたいと思った次第でございます。

現在、少数与党内閣となっている中で、今後どういった施策が展開されるか、予断を許さないところですが、地域を元気にしていこうという地方創生の方向性は揺るぎのないものだと考えております。この研修会の成果を、それぞれの地域に持ち帰っていただいて、また活用していただければ幸いです。

政府としましては、人の流れ、地域の仕事を作り、また、暮らしを守るということ。さらには子育て経営での、最終的に人口を増やすという形の4つの大きな柱があるわけですが、その中で総務省としては、1つ目としては人の流れを作っていくこと、それをリアルな形で作っていくことを目標にした施策としまして、皆さんご存知の通り「地域おこし協力隊」を進めております。

現状をご報告いたしますと、令和5年度の隊員数は7,200名となり、3年を任期と考えますと、それを割り算して1年あたりの数字になります。受け入れの自治体数は1,164自治体

となり、直近の5年間では、任期後に卒業した隊員の約7割の方が、そのまま地域に定住をされております。その際には今までの仕事を引き継いだり、新しい仕事を起こすという形でございますので、我々としては、まさに地域活性化の中の最も誇るべき施策だと考えており、目標としては令和8年度までに、1万人まで増やしていきたい、しっかりとサポートしていきたいと考えています。もう1つ、リアルな移住に並びまして、バーチャルな移住ですね、都市部の民間の即戦力人材を地域活性化につなげていただくということで、地域活性化起業人という施策を、ここ数年で勢いをつけてやっております。従来から自治体と企業で協定を結んでもらい、社員を選んで地域に出していただくという形でやっておりますが、最近は副業も積極的に各会社でやっておりますので、副業を目指す個人の方と、市町村が契約を結んでいただくという形も増えてきております。これらについても、今後の予算関係の中でしっかりと進めていくということを1つの目標としていっております。

もう1つ大きな柱として、過疎団体や人口急減地域に対する支援として、令和2年度に創設されました「特定地域づくり事業協同組合」があります。これは法律に基づき、人口急減地域でいろいろな仕事を集めて、若者の定住の受け皿にするという考え方ですが、これが5年間で104組合まで増えまして、さらに伸ばしていくということで、最終的には300組合くらいまでは伸ばしていきたいという目標を立てております。総務省として、人の流れ、また仕事を作り、地域を守る、こういったことを引き続きやっていきますので、皆様のご協力をいただければありがたいと思っています。

最後に本大会の開催にあたりまして、ご尽力いただきました西村会長、また島中会長をはじめ大会実行委員会の皆様方、また地域づくり団体の皆様、さらには地元宮崎県の職員の皆様、また市町村の皆様非常に世話になりました。ありがとうございました。本大会の成功にご参加いただいております皆様の、今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。よろしくお願いいたします。



第40回地域づくり団体
全国研修交流会宮崎大会実行委員長

島中 星輝

皆様、今回の「宮崎大会」楽しんでいただけましたでしょうか？

地域の景色は「てげ」素晴らしかったですでしょうか？

地域の食は「てげ」美味しかったですでしょうか？

地域の人は「てげ」素敵だったでしょうか？

そしてさらに懇親会の夜は「てげしょちゅくれ」になりましたか？

今日は、苦節3年で会議を積み重ねて、議論を積み重ねて、懇親会を積み重ねて、翌日には忘れて、また会議を繰り返すという、小さな前進を繰り返して、やっと今日最後の日を迎えることができました。

ここで宮崎弁をもう1個覚えていただきたいと思いますが、一昨日は「てげ」という言葉を覚えていただきましたが、今日は「てげてげ」という「大体」とか「適当」という意味でございますが、万全を期しましたけれども、天候も含めて至らない点があったかもしれません。

「てげてげ」な対応があったかもしれませんが。ぜひそこは「地域づくり」の仲間として大目に見ていただけると嬉しく思います。

明日から私たちは、皆さんも含めて日々の「地域づくり活動」をまた新しく始めていかれることと思います。「楽しくなければ地域づくりじゃない！」をモットーに1年間「地域づくり」に励んでいただき、来年また「栃木大会」で再会できることを祈念して私の挨拶とさせていただきます。

今回はご参加いただき、ありがとうございました。

最後に「武者小路実篤」の言葉からいただいた「宮崎県地域づくりネットワーク協議会」恒例の挨拶「皆さんに愛はありますか？天に星・地に花・人に愛」「愛！愛！愛！」で締めを行いたいと思います。



第1分科会

高千穂郷・椎葉山 ブロック



分科会1日目の最初、「荒立神社」にて雨が降っておりました。傘をさしても濡れる雨の中、皆さんの靴下も濡れまくりでしたが、「フットパス」は楽しんでいただけました。

「下川登公民館」にて、日之影町唯一の茶屋さん「一心園」のお茶の接待があり、高千穂町長、公民館長さんの挨拶がありました。昼食は 竹かつぼで鳥を蒸し焼きにする「かつぼ鳥」です。竹の器で「お煮しめ」とか「おむすび」とか「漬物」こういったもので、「下川登」のお母さん方が手料理でご飯をご用意いただきました。

そして神楽、高千穂では定番の「手力雄の舞」。これは力強い舞でした。「白面の手力雄」が最初出てきてここが岩戸かと探り、その後「細女（うずめ）」が岩戸の前で舞い、最後見つけたぞ「ここだ岩戸は」ということで、岩戸を外して投げるというこの3番を連続でやっていただきました。

全体のテーマを「フットパス」でやりましたので、フットパスのガイドさん、それから「下川登公民館」の活動報告も素晴らしいかったです。

夜は椎葉から来ていただいて「手打ちそば」と諸塚村の「どんこ（シイタケ）の炭火焼」、「猪肉の味噌漬けの炭火焼」、「鹿肉の赤ワイン煮込み」などです。2次会はキャンプ村の管理棟でストーブに当たりながら行いました。

翌日の朝ごはんは、たかきびバーガーのホットサンドです。オプションで、何名か早朝から起き「うのこの滝」に行きました。それからユネスコ無形文化財に指定されました「荒踊」の勇壮な舞を見ました。本来は40名から50名くらいで9月の最終日曜日にやる舞ですが、今回は13名出ていただいて、貴重な舞を見せていただきました。

五ヶ瀬自然学校の岩谷さんからは、今回全国からたくさんの方が集まっていたいて、それから宮大生の2人からも、「やっぱり高千穂はすごいよね」という話をいろんなところで話を聞くことができ、高千穂の良さを参加者に感じていただけたと思っています。

第2分科会

延岡 ブロック



延岡分科会のメインテーマでもある「延岡三蔵協議会」ですが、清酒の「千徳酒造」、焼酎の「佐藤焼酎」、地ビールの「宮崎ひでじビール」という本来なら競合するこの3社が互いの情報交換や連携した企画に取り組むため協議会を組織し、技術向上、地域経済の発展につなげようと活動されています。

それぞれの企業が世界一、日本一、日本初、日本最南端など様々な実績があり、商品を生み出すドラマを大切にしながら、切磋琢磨しつつ地域と連携した活動等にも積極的に参加するなど、地元である延岡市の活性化にも尽力されておられます。参加者の方にはその酒造会社を見学、また試飲もしていただくなど、魅力に触れていただきました。

1日目のランチは、「鮎やな」に足を運びました。「鮎やな漁」は伝統的な漁法で延岡市に伝わっているものなのですが、今回は残念ながら先日の大雨の影響で、「やな」が流されてしまって、川にかかっている「やな」を見ることができなかったのですが、観光協会の方に見本を設置していただい、そちらを見ながら説明を受けることができました。

次に「風の菓子虎彦」にお伺いしました。冷たいお茶を飲みながら、上田社長にお話を聞き、地域作りとは何かとか、地域作りにおける姿勢についてお話をいただきました。「日向のざざれ石」と「破れ饅頭」を、それぞれ参加者の皆さん全員にプレゼントしていただきました。

次に、愛宕山展望台を訪れました。ここには日が沈む前に着いてしまって、夜景を見ることはできなかったのですが、360度見渡せる展望台から延岡の市街地や日向灘を見ることができ、延岡の神話や風景について、コーディネーターの方とお話をしました。

交流会では延岡ならではの「チキン南蛮」や新鮮な「日向の本サバ」や「へべすブリ」をいただきました。

最後に、来年の開催地である栃木県からいらっしゃった皆様に、各ブロックの紹介をしていただきました。

参加者からの声として、「宮崎のおおらかで寛容な人柄にとっても温かい気持ちになりました」があがりました。

宮崎大学地域資創成学部 3年 我如古 幸都 2年 米 脩佑



第1分科会は「フットパス」が目玉で、「フットパス」を通して地域の方々と交流しながら、その土地に根付いた生活を知ることで、地域の本質にふれることができるという点に感銘を受けた。1日目は雨で濡れになり、その夜には炭火の煙で燻製になるなど色々あったが、鹿肉や猪肉、さらにシイタケなどの特産品を使った料理を味わうことができ、食の豊かさに触れることができた。地域住民の方と交流することで人の温かさを実感し、そして何より今大会に参加していただいた皆様の地域に対する熱い思いにふれることができ、とても良い刺激を受けたことが良かった。

宮崎大学地域資創成学部 4年 永野 茉莉 2年 一丸 萌夏



自分の故郷である延岡の分科会に参加して、他の地域の方々が自分の住む地域に足を運び、興味を持ってもらえることが、とても嬉しいということに気づくことができた。また、アクシデント等もあったが、参加者の皆さまに寛容な対応をしていただいていたことが良かった。人材不足、高齢化、後継者育成の難しさなど、やはり、どの地域も同じ課題であると感じたが、その地域の課題を解決するためには、私たちの世代が当事者意識を持って行動を起こしていく必要があると感じた。これから地域づくりを行っていく上で、とても勉強になった。

第3分科会

日向・東臼杵 ブロック



私たちのテーマは「海がつなく“ひなた”の Mellow Life」。これは「海を楽しむ人」、「海を守る人」、「海と生きる人」の、「Mellow Life」にスポットを当て、地域資源の幅広い活用と、活性化の取組について発信すると共に、様々な体験を通じて、その理解を深める機会を創出するというテーマです。

まず初めに金ヶ浜海水浴場近くにある商業施設、ステアーズ・オブ・ザ・シーのサーフオフィスにおいて日向市の紹介とワーケーションの推進に関するセミナーを行いました。

その後、昼食会場に場所を移し、日向市平岩地区で行われている「藻場の再生」について、自身も移住サーファーで株式会社 UMITO Partners の岩本愛さんより、漁業のDX化や「体験型観光コンテンツ」の推進などについて漁師の高田一人さんより、それぞれの活動についてのお話を伺いました。

セミナー終了後は日向岬に向かい、「願いが叶うクルスの海」と「馬ヶ背」を見学。国の天然記念物に指定されている日向岬の柱状節理の壮大な姿と、太平洋が一望できる景観に参加者の方も大変感動されておられました。また旧市街で歴史的

建造物が多く残る細島のまちを活用した体験型コンテンツ「フォトミッション」を開催。日向市の文化財に指定されている町家で説明を受け、その後キーワードをもとに答えを求めてゲームに参加していただきました。

ホテル到着後は、橘ひよっと踊り保存会の方々による「ひよっとご踊り講習会」を行い、その流れで一日を締めくくる交流会がスタート。西村賢日向市長も駆けつけ、参加者へ向けて歓迎の挨拶を述べられました。

翌日は日の出に合わせてマインドフルネス体験と裸体験をそれぞれ実施。天気にも恵まれ清々しく一日をスタート。朝食後は日向市駅に向かい、市の担当者から日向市駅の鉄道高架事業と駅前広場の活用について現地でお話を伺った後、最後の目的地であるみなとオアシスほそしまに向かいました。

参加者からは、「この分科会に参加して細島地区やひよっとこなど歴史的、文化的な要素を学ぶことができた。この伝統を途絶えさせてはいけないと感じた」という感想などが上がっていました。

第4分科会

児湯 ブロック



新富町は1万5,000人の町です。最寄り駅は「日向新富駅」ですが、そちらの便が増便されるということが、サッカー場ができたことで起こりました。他にも、「スマートインターチェンジ」が整備されることが決まったり、最寄りの国道が4車線化されたりと、非常にサッカーを始めとして、大きな影響が起こりました。

今年「なでしこリーグ1部」で優勝しましたのが「ヴィアマテラス宮崎」です。「地域おこし協力隊」が「なでしこリーグ」のサッカーチームとしてやっているのですが、元々は女性流出ってところの課題感から始まって、結果としてそういうサッカーとして新富と関わっています。

昼食は「カフェレストランHatsune」でいただきました。地元の農家が育てた新鮮な野菜やお米を使用していて、地元農家さんの思いが込められているところなので、ぜひ利用していただきたいと思います。

その後、午後になりまして、「ヴィアマテラス宮崎」の選手の方からお話を伺いました。

「新富町交流センターきらり」では「ヴィアマテラス宮崎」代表の秋本さんによる講話を聞かせていただきました。

新富町と連携をしたきっかけのお話や、選手が選手として仕事できるという点が「ヴィアマテラス宮崎」にはあるんですが、そのことについてもお話を伺いました。

交流会は「ホテル四季亭」で行われ、「ヴィアマテラス宮崎」さんのパフォーマンスとか「じゃんけん大会」を行って、「ウナギ」を手に入れた人がいらっしゃいました。

2日目は「都農神社」に参拝に行き、「都農ワイナリー」で、お昼ご飯をいただきました。朝に向かったので、すごい空気が良かったです。

その後都農町の「ヴェスロスクロノス都農」というサッカーチームがあって、その事例も聞きました。ここでは、移住者を増やすというような話を聞いて、盛り上がりました。

宮崎大学地域資創成学部 3年 河内 凜子 2年 竹内 美結



日向市はサーフィンが有名で、全国からサーファーが移住してくることで、新しい文化や若い人が入り、刺激になっていると感じた。また、日向市細島地区は高齢者にとって住みやすい環境であると感じた。ただ、「ワーケーション」の取組など、民間と行政の連携はあるが、私たち大学生との関わりが少ないと感じた。今回、日向で「デジタルノマド」などを学び、場所を選ばずに仕事をすることの可能性を感じたので、大学などを通して計画的に関わっていきたく思った。太平洋を一望できる日向市は、本当に風光明媚なところで、参加者の方も楽しんでいる様子がうれしかった。

宮崎大学地域資創成学部 3年 尾崎 渚 2年 佐藤 美月



今回の大会を通じて学んだことは、新富町長の話の中にあっただ、「進めたいビジョンを明確にし、地域をうまく巻き込みながら進めている」ということ。特に、「地域おこし」に積極的な団体が多く、様々な意見を取り入れたアプローチを行っていることが良い点であると感じた。逆に、児湯郡の町村同士のつながりが薄いように感じられたことは、今後の課題であると思った。私自身、新富町出身であるが、「地域おこし協力隊」が、今までどのように自分の地元に影響を与えていたのかということを知ることができる良い機会となり、自分の地域に自信が持てるようになった。

第5分科会

宮崎・東諸県 ブロック



1日目は「江田神社」と「みそぎ池」にいきました。宮崎に住んでいても知らない神話の話を聞くことができました。

神話にまつわるスポットを実際に見ることができ、伝統を継承できる資源になっていくのではないかと思います。また、「野島神社」では、神社の方が自分たちの資金だけで神社に参拝する人を増やす取組を行ってありました。

「青島神社」では、青島についてのお話から青島地区の発展に関するお話をいただきました。ここでは地域活性化のモデルの1つになっているのではないかと感じました。

また「とんところ地震紙芝居」、「うずら車絵付け体験」、「地域のお宝発見かるた遊び」の3つの体験をし、それぞれお話を伺いました。発表者として、成功だけでなく、苦労したことありのままの物語を発表することで、今回参加していただいた地域づくり、そして、人生の先輩方からたくさんのアドバイスをもらうことができました。

「青島神社」では、「飲み会」が終わった後に「ナイトツアー」を行い、「オカリナの演奏」と「元宮探検」、「星空観賞」を行いました。

翌朝「朝ヨガ」を7時から開催させていただいて、青島の海で朝日を浴びながら、神秘的な光景でできるというのも宮崎ならではの魅力ではないかと思っています。その後は「NPO 法人宮崎文化本舗」の取組について知りました。参加者の方からは、宮崎の人の温かさや「おもてなし」といったものもそうですが、その1歩先にある熱い思いを持った人が多いということをお話いただきました。そして、地域資源を生かした「町づくり」が行われていたこと。小さなことから始めていく、地域の「キーパーソン」の重要性を知ることができたという意見をいただきました。

第6分科会

西諸県 ブロック



第6分科会は、「地域の資源（人・モノ・自然）を活かした協働のまちづくり～新たな担い手づくり～」をテーマに分科会を行いました。

1日目でパネルディスカッションを行い、実際に活動を行っている方々の話を聞くことができました。地域を変えたいとか、自分の地域を盛り上げたいというのは、本当に誰もが思っているのだと思います。しかし、そういう思いを持っている人が、どうやって盛り上げていいのかわからない、仕組みがわからない。熱意がないと言ったら失礼かもしれませんが、足りないのではないかと思います。仕組みと熱意が「新たな担い手」を育てるには、それなのではないかと考えました。

「パネルディスカッション」で3人の方が共通して「楽しもう」というワードを使っていました。やっぱり実際に「新たな担い手」となる人というのは、「楽しもう」ということをすぐ

大切にしているのだと改めて思いました。

最後に今回分科会終わっての感想ですが、今回分科会を担当することが決まって自分なりに調べたり、実際に足を運んでみたりして、もう学ぶことはあまりないのではないかなと思ったのですが、改めて実際に分科会と一緒にいって、新しいことを学ぶことができたことは、やはり資源があるだけでなく、その資源に対して「ストーリー」があって、それをしっかり説明してくれる方がいるからこそ、発見できると思ったので、資源があるということだけをアピールするのではなく、その資源に対してちゃんと「ストーリー」があるということをしつかり発信していかないと良くないのではないかと、今回の分科会で学びました。

宮崎大学地域資創成学部

3年 天島 響希 2年 那賀 耀



「江田神社」、「野島神社」、「青島神社」の三社めぐりをしたが、宮崎市に住んでいながら知らない話が多く、大学生としてこの話を受け継いでいく必要があると感じた。青島のプロジェクト活動や地域づくりを行う中でも、人生の先輩から学ぶことが多いと感じている。今回は青島ナイトツアーや朝ヨガなど、地域資源を活用した取組にふれることもできた。宮崎文化本舗の取組からは、中間支援組織としての取組が人と社会をつないでいることがわかるなど、学校の授業では学べないことも多かった。このような活動や人の思いを地域づくりに関心がない人にも伝えたい。

宮崎大学地域資創成学部

3年 石川 瑛人 2年 米澤 萌衣



初日、天気が悪く、えびの高原を散策できないのが残念だったが、地元の方々の話から地域愛を感じることができた。次の日は嘘のように晴れて御池など美しい霧島の景色を見ることができた。今回、分科会の前に、地域に足を運んで自分なりに調べたりしたが、みなさんと一緒にいることで新しい学びがあった。地域資源にはストーリーがあり、説明する人がいるからこそ発見につながるのだと思った。地域づくりには新たな担い手が必要で、担い手であるヒトと熱意と、それを育てるための仕組みが必要だと考えた。そして、そのための交流の場を創出することが大切だと思った。

7
分科会

都城・北諸県 ブロック



最初に訪れた場所が、こちらの「松山牛舎」という場所で、「松山牛舎」で作られたお肉は日本で、A5ランクの中でも最高級の品質を誇っています。

続いて「柳田酒造」の視察を行いました。「柳田酒造」では、2023年に「日本酒類コンクール」である「Kura Master（クラマスター）」で、「青鹿毛」というお酒で最高賞である「プレジデント賞」を受賞しました。

続いて「霧島酒造秋祭り」の視察を行いました。視察後に江夏社長からお時間をいただき、お話を聞かせていただきました。続いて、人力車の搭乗体験をさせていただきました。こちらの「みやこんじょ力傳組合」の方々は、「皆様に愛と勇気と元気を捧げ、夢を乗せ絆に引きまます人力車」というコンセプトを掲げています。

実際に私たち分科会全員調査させていただいたのですが、非常に貴重で印象的な体験ができたと思っています。

「肉と焼酎のシンポジウム」では「松山牛舎」の松山さん「柳

田酒造」の柳田さん以外にも、「観音池ポーク」社長の馬場さんにお越しいただき、お話をお伺いしました。

そして夜の交流会ですが、都城には「都城酒造」、「大浦酒造」、「霧島酒造」、「柳田酒造」の4つの「酒蔵」があり、それぞれの焼酎と都城の郷土料理のどの組み合わせが合うかという「マリアージュ」を行いました。

2日目は「道の駅NiQLL」に視察に行き、福留さんにお話を伺いました。

「肉と焼酎の街が体験できる施設に」というコンセプトを掲げています。ここでも皆さん焼酎を飲んだり、「肉がちゃ」といって、肉が出る「ガチャガチャ」があり、サーロインを当てたという、強運の方がいました。

今回の2日間で私たちは、「焼酎への愛」や、「地域への愛」、「料理と焼酎の相性の愛」。それから「人との出会いの愛」など様々な「愛」を感じることができました。

8
分科会

日南・串間 ブロック



日南・串間ブロックは「300年以上ずっと変わらない地域と、変わることを余儀なくされた地域」というテーマで行いました。まずは酒谷支所にて日高茂信さんよりご講話をいただきました。酒谷地域は棚田やダムがある地域という話がありました。その中で「道の駅酒谷」や「酒谷地域」のこれまでの取組や、存在意義、目的などの話がありました。具体的には集落の活性化を目指し、道の駅を誘致したり、「草だんご」などの特産品開発の話がありました。地域づくりに取組んでいる参加者からは、地域の魅力や道の駅の話のみならず、後継者問題や棚田で作ったお米の卸し先などの質問がありました。

次に「川畑蒲鉾店」で川畑社長の話を聞きました。お店は家族数人でまかない、機械化していないがうえ、繁忙期の忙しさや苦労話があるとのこと。どの地域でもいえることであるが、後継者不足が深刻な問題のようです。講話後は蒲鉾作り体験をしました。できた蒲鉾はお土産に貰い、皆さん美味しくいただきました。昼食は大乃屋にてご当地グルメの「串間活ぶりぶり丼」をいただきました。ボリュームがあるのですが、大きな蒲鉾を食べた後でも皆さんペロリと食べていました。その後、「なないろ路面電車」に向かいました。コロナ以降2年間、何も活用されていなかった路面電車を地域活性化や

地域づくりの拠点として活用しているという話を聞きました。車内では駄菓子や特産品の販売をしていて、動画配信もされているようです。

都井岬では野生馬(御崎馬)の生態を生で見せて、案内役の世良田さんの話に聞き入っていました。また、バカラバカという都井岬交流館で、四季折々の自然や野生馬の魅力も教えていただきました。昔から約300年も続く野生馬に触れ、参加者は自然の尊さを感じられていました。

夜は「居酒屋伊予屋」で夕食交流会を行いました。串間市の副市長をはじめ、串間市で地域づくり・地域活性化に尽力されている方々も参加し、有意義に交流することができました。

2日目は油津商店街にある「湯浅豆腐店」で朝食をいただいた後、交流スペース「油津 Yotten」にて島中ブロック長の講話をいただきました。油津商店街は以前はシャッター街と呼ばれていたが、地域住民や学生を巻き込み、単にシャッター街を再生するのではなく企業誘致やプロ野球球団広島東洋カープと連携したりなどの取組が興味深いものでありました。どのような時代でも変わらぬ自然と変わりゆく地域があることを痛感できた分科会であったと思います。

宮崎大学地域資創成学部 4年 二見 丞治 4年 南 さやか



「焼酎への愛」や「地域への愛」、「料理と焼酎の相性の愛」、それから「人との出会いの愛」など様々な「愛」を感じることができたと思う。学生として運営側や参加者側のどちらの立場にも関わらせていただいたが、運営側では都城市の魅力の伝え方の難しさを知った。参加者側からの立場としては、皆さんから「都城で良かった」とか、「肉と焼酎最高」という声を何度もいただくことができ、すごく嬉しかった。また、自分の地元に着用することができた。「郷土愛・地域づくり愛」を感じた「愛」いっぱいの分科会になったのは皆さんのおかげだと思った。

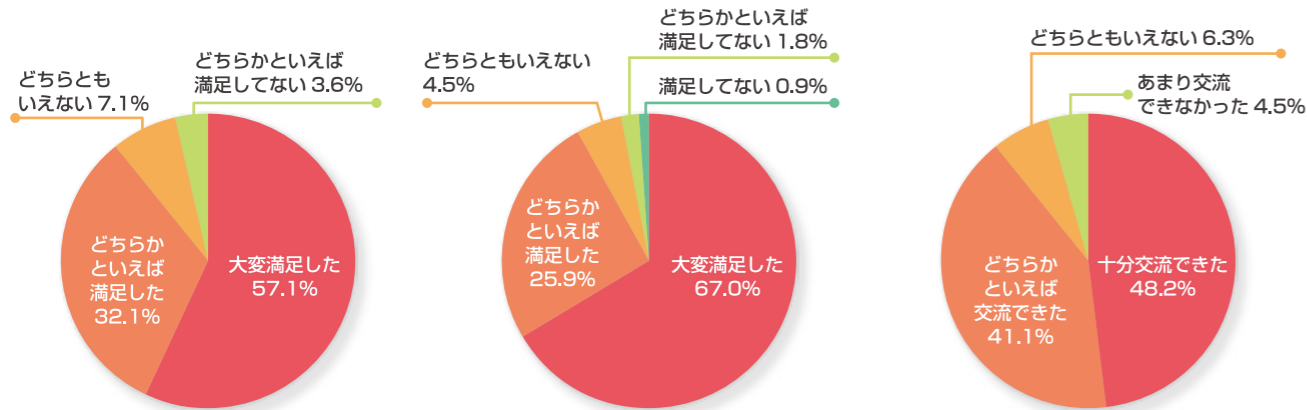
宮崎大学地域資創成学部 4年 小玉 翔也 4年 穴井 捷太郎



第8分科会は、「都井岬」や「酒谷」で「ザ・宮崎!」といった自然を大いに感じられるプログラムだった。また、「座学」と「体験型のプログラム」がバランス良く組まれており、日南・串間についてたくさん学び、楽しむことができた。私たち宮崎の大学生として、宮崎に住んでいるからこそ感じられなかった魅力や価値があるということを再確認できた。そして地域づくりにおいて、地域に対する愛情・情熱、地元の誇りといった心の部分が大変重要であることが分かった。短い時間ではあったが、これまで長年活動されてきた方々や逆に活動を始めたばかりのまだ若い世代の方、たくさんの方の熱い思いに触れていただけたのではないかなと思う。

参加者アンケート

全体交流会



オープニングセレモニーの「日向ひょっとこ踊り」について

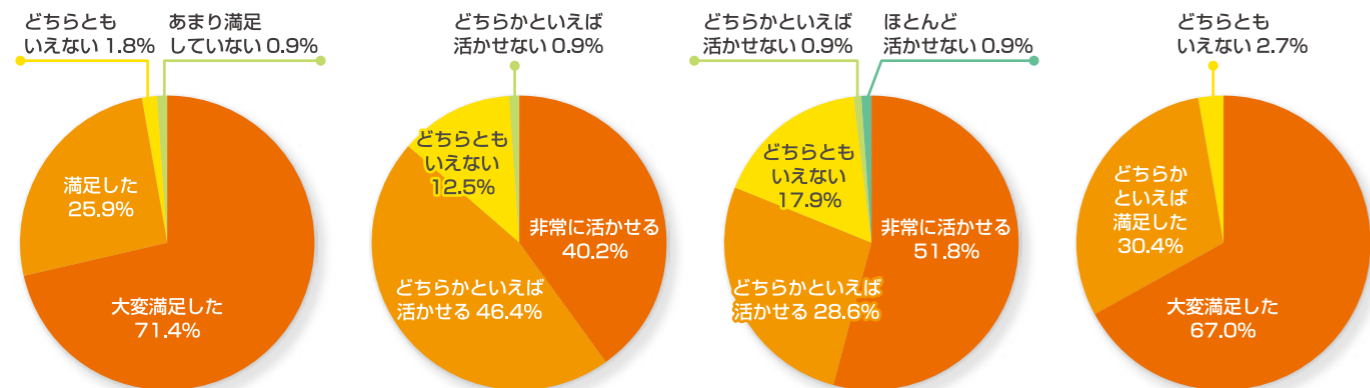
- 少し狭くて、なかなか動けなかったのが、もう少し広いと良かったです。料理は盛り付けも品数も多く、味も素晴らしかったです。
- 各団体の地域の思いや活動についてお話が面白かった。このような視点があると感じた。
- 積極的に会話に参加していかないとなかなか周りとの交流できないので、難しさを感じた。
- たいへんお世話になりました。地域のパワフルな方々に接し、刺激を大きくいただきました。

料理について

- 会場の料理、とても美味しかったです。ただ奥のテーブルにあった宮崎の郷土料理に全く気付かず、最後の最後に気づいたので、ほとんど食べられなくて残念でした。郷土料理も真ん中に持ってきたほうが良かったと思います。
- 出し物の「ひょっとこ踊り」が楽しめました。前夜祭でしか会えない全国からの知人との交流の時間をとっていただいたので良かったです。
- 交流会を分科会ごとにするならテーブル分けだけでなく、分科会メンバーが交流しやすいように考えてほしいです。

交流は十分できたか

分科会・全体会



分科会の内容について

- 宮崎は食べ物美味しいし、神話が多く奥深かったです。参加した他の分科会でも楽しそうだし、人のおおらかさを感じました。
- 以前は観光地第一位だった頃の話聞いていて、もっと知りたいと思いました。若い人たちもUターンして頑張っていることに感動しました。
- 参加者が地域団体より、行政が多いのが現実です。地域団体が参加しやすいように工夫、参加費の金額等、考慮が必要だと思います。

自身の活動に活かせるか

若い世代との協働した地域づくりは活かせるか

- 学生さんたちも、明るく場を盛り上げてくれました。最後の発表も、皆さんとてもお上手でした。ひょっとこさんもおもしろかったです。
- とてもありがたい大会だと思います。次世代の若い人たちがもっと参加できるような仕組みを作してほしいと思います。行政の方からも勧めしてほしい。

大会を通しての満足度について

- 学生の地域学習の取り組みは全国で見られるが、大会の運営を通じて、継続的に協力して取り組む体制作りをされた点を参考にしたい。

次回開催県 栃木県 PR



次期開催あいさつ

次回開催・栃木県の実行委員会委員長をします手塚将之と申します。13の分科会では、様々な体験をご用意しています。分科会の説明をこれからさせていただきますので、ご拝聴ください。

第2分科会 足利市

足利市は関東平野の北端で、栃木県の中では南西に位置しています。来年の大会では、里山地域で「農福連携」に取り組むワイナリーの見学、耕作放棄農地の新しい活用の取り組みなど、地域に根差した活動を紹介させていただきます。

第4分科会 佐野市

「奥佐野」での活動事例を紹介し、「関東版モノの池」こと「出流原弁天地」を目指します。2日目は、名物「佐野ラーメン」の麺打ち体験と名字の「佐藤」のルーツの一つである「藤原秀郷」が居城した「唐沢山城跡」の散策などを予定しています。

第6分科会 日光市

2つの地域を巡りながら、それぞれの地域の光と影に迫ることとし、日光地域では「門前町」の今と昔、また、日本を代表する銅山の「足尾地域」では、産業の近代化に貢献した「産業遺産」を巡り、森林の再生に取り組む活動を紹介いたします。

第8分科会 真岡市

栃木県は「いちご」の生産量が日本一であり、その中でも真岡市が生産量が1番なのです。学生たちと「まちづくりプロジェクト」をやっている、「公共空間の活用」、例えば「河川敷」や文化財を活用した「まちづくり」の実験などを紹介します。

第10分科会 矢板市

矢板市は林業が盛んで、間伐材の利用が日本で第3位というような地域であります。矢板市では林業から学ぶ「まちづくり」として、廃校を活用した取り組みなどを紹介します。

第12分科会 茂木市

茂木町では、県内第一号の道の駅に指定された「道の駅茂木」、独自の循環システムを構築した「美土里館」、世界レースも開催される「モビリティリゾートもてぎ」。そして、耕作放棄地を再生させた「そばの里まぎの」を紹介します。

第1分科会 宇都宮市

宇都宮市と言えば何をイメージされますか？「餃子」でしょうか？第1分科会では「NPO法人大谷商工観光協会」が進めている「大谷石」を中心とした大谷地域の魅力発信やイベント開催などについて紹介します。

第3分科会 栃木市

活動の拠点は、県内唯一の「伝統的建造物群保存地区」と言っても、歴史の街並みの保存地区が残っています。この地域で歴史を重んじながら、若い世代の人たちが後世に歴史を残していくために行っている活動などを紹介していきます。

第5分科会 鹿沼市

鹿沼市は歴史のある自然豊かな町ですが、高齢者が多くなり「移送サービス」が必要となったということで、分科会のテーマとして「移送サービス」を紹介します。また、農業を核として、農業体験についても紹介する予定です。

第7分科会 小山市 下野市

小山市では、官民連携の「エリアビジョン」や中心市街地の街づくりと田園環境を活かした「観光農園いちごの里」の紹介、下野市では、住みやすさランキングが県内1位です。第7分科会は唯一2つの市を巡るお得な分科会になっています。

第9分科会 大田原市

古くは、「古墳時代」から歴史があり、「日本三古碑」の一つである「那須国造碑」など、多くの史跡を見学いただけます。さらに、みんなで支え合える「ごちゃ混ぜのコミュニティづくり」を行っている団体との交流も予定しています。

第11分科会 那須塩原市

こだわり溢れる個人店が集まっている「黒磯エリア」などのアート施設を案内し、暮らしの魅力と先人による開拓の歴史をなぞるように、アートや文化の種を蒔き、耕し、豊かでクリエイティブな町を育てるアートプロジェクトを伝えたいと思います。

第13分科会 那珂川町

那珂川町に「小砂町」というところがあり、「金結晶釉（きんけっしょうゆう）」という釉薬を使った、金色の焼き物があり、それを皆さんに手びねりかロクロで作ってもらおうと思っています。

参加者一覧

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

第1分科会 高千穂郷・椎葉山 ブロック

| | | |
|-----|---------|-------------------|
| 長野県 | 丸山 純一 | NPO法人元氣お届け隊 |
| 群馬県 | 山崎 紫生 | 文科創生研究所 |
| 石川県 | 濱 博一 | 石川地域づくり協会 |
| 石川県 | 濱 和代 | 郷土食研究会 |
| 石川県 | 三津井 司 | 石川地域づくり協会 |
| 栃木県 | 後藤 芳枝 | 名草craft |
| 東京都 | 平井 太郎 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 東京都 | 吉田 光来 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 兵庫県 | 菅村 定昌 | NPO法人コウノトリ市民研究所 |
| 島根県 | 梶原 光朝 | 今福まちづくり委員会 |
| 島根県 | 島田 範明 | 公益財団法人島根県市町村振興協会 |
| 香川県 | 藤岡 修 | 五郷里づくりの会 |
| 長崎県 | 青山 一信 | 長崎県地域づくりネットワーク協議会 |
| 長崎県 | 山口 澄子 | NPO法人アクロス五島 |
| 長崎県 | 吉田 寛司 | NPO法人アクロス五島 |
| 長崎県 | 鳥山 清治 | NPO法人アクロス五島 |
| 熊本県 | 遠山 好勝 | 火の国未来づくりネットワーク |
| 沖縄県 | 入嵩西 千鶴子 | 公益社団法人沖縄県地域振興協会 |

第2分科会 延岡 ブロック

| | | |
|------|--------|--------------------|
| 栃木県 | 山田 功 | 足尾まるごと井戸端会議 |
| 栃木県 | 中野 祥寛 | 日光市役所 |
| 栃木県 | 渡邊 正道 | PLAN OYAMAプラットフォーム |
| 栃木県 | 中村 英慈 | 小山市 |
| 栃木県 | 手塚 将之 | 有限会社手塚武商店 |
| 栃木県 | 渡邊 豪 | 栃木県総合政策部地域振興課 |
| 茨城県 | 後閑 友裕 | 茨城県自治研修所 |
| 東京都 | 米澤 朋通 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 東京都 | 菅原 沙也佳 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 兵庫県 | 木村 幸一 | 淡路ふるさと塾 |
| 島根県 | 小笠原 勝司 | ふるさと島根定住財団 |
| 島根県 | 田邨 一男 | 今福まちづくり委員会 |
| 島根県 | 石川 厚志 | 公益財団法人島根県市町村振興協会 |
| 島根県 | 森山 忍 | NPO法人まちづくりネットワーク島根 |
| 島根県 | 宇賀 雄太 | 島根県しまね暮らし推進課 |
| 島根県 | 山本 宏史 | 個人参加 |
| 和歌山県 | 御前 史郎 | 和歌山県庁 |
| 香川県 | 工藤 里美 | 五名活性化協議会 |
| 長崎県 | 山村 修生 | 長崎県地域づくりネットワーク協議会 |

第3分科会 日向・東臼杵 ブロック

| | | |
|-----|---------|------------------------|
| 栃木県 | 飯塚 悟志 | 大田原市役所 |
| 栃木県 | 田浦 梨央 | 那須塩原市ART369プロジェクト実行委員会 |
| 栃木県 | 平山 倫葉 | 那須塩原市役所企画政策課 |
| 栃木県 | 増山 智也 | 栃木県地域振興課 |
| 東京都 | 笠 千尋 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 埼玉県 | 井ノ川 トシ子 | 埼玉県北部振興センター本庄事務所 |
| 兵庫県 | 寺田 侑夏 | 一般財団法人明石コミュニティ創造協会 |
| 大阪府 | 西井 ちさと | 社会福祉法人和泉市社会福祉協議会 |

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

| | | |
|------|--------|------------------|
| 和歌山県 | 中谷 美桜 | 団体参加 |
| 和歌山県 | 中村 太紀 | 団体参加 |
| 島根県 | 渡部 景子 | 公益財団法人ふるさと島根定住財団 |
| 島根県 | 出雲 佳代子 | |
| 島根県 | 岩見 しおり | 島根県海士町役場 |
| 香川県 | 戸井 裕孝 | |
| 長崎県 | 中村 淳 | 長崎龍馬会 |
| 鹿児島県 | 清藤 敏浩 | KAGOSHIMA熱闘会議 |
| 鹿児島県 | 江口 是彦 | KAGOSHIMA熱闘会議 |
| 沖縄県 | 島袋 朝美 | 公益社団法人沖縄県地域振興協会 |

第4分科会 児湯 ブロック

| | | |
|------|----------|------------------------|
| 北海道 | 小川 朋栄 | 地域づくりネット深川輝人工房 |
| 青森県 | 名久井 正廣 | 特定非営利活動法人テイクオフみさわ |
| 福島県 | 佐藤 敦 | いわき市役所市民協働部地域振興課 |
| 群馬県 | 栗原 靖 | 群馬県地域創生部地域創生課 |
| 栃木県 | 山城 悠矢 | 栃木県矢板市役所 |
| 石川県 | 山田 彬弘 | 石川地域づくり協会 |
| 福井県 | 多田 憲市 | NPO法人農と地域のふれあいネットワーク |
| 福井県 | 多田 喜市 | NPO法人農と地域のふれあいネットワーク |
| 東京都 | 林崎 理 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 東京都 | 大和 史弥 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 島根県 | 板倉 優 | 公益財団法人ふるさと島根定住財団 |
| 島根県 | 土江 充 | 島根県市長会 |
| 島根県 | 石川 直 | 島根県益田市政策企画局連携のまちづくり推進課 |
| 島根県 | 坂本 大志 | 島根県石東地域振興課 |
| 島根県 | ロドリゲス 拓海 | 島根県海士町役場 |
| 島根県 | 吾郷 和宏 | 島根県益田市 |
| 和歌山県 | 北道 明日香 | 和歌山県地域振興課 |
| 福岡県 | 大坪 由佳 | 福岡県企画・地域振興部市町村振興局政策支援課 |
| 長崎県 | 網本 定信 | |
| 長崎県 | 米田 靖夫 | 森里海再生協議会 |
| 熊本県 | 稲田 優 | 山江村役場企画調整課 |
| 鹿児島県 | 米山高 兆 | KAGOSHIMA熱闘会議 |
| 鹿児島県 | 木元 金市 | KAGOSHIMA熱闘会議 |
| 宮崎県 | 長友 慎治 | 宮崎ひなた食べる通信 |

第5分科会 宮崎・東諸県 ブロック

| | | |
|------|--------|------------------------|
| 青森県 | 三浦 政宣 | 青森県 |
| 栃木県 | 遠藤 百合子 | NPO法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会 |
| 栃木県 | 大庭 里美 | 那須塩原市役所企画部企画政策課 |
| 栃木県 | 印南 清四郎 | 那須塩原市役所企画部企画政策課 |
| 栃木県 | 栗原 由佳 | 個人参加 |
| 栃木県 | 横田 英輔 | 栃木県総合政策部地域振興課 |
| 埼玉県 | 上田 由花 | 埼玉県企画政策部地域政策課 |
| 東京都 | 望月 明雄 | 総務省地域力創造審議官 |
| 東京都 | 大城 史晃 | 総務省地域自立応援課 |
| 兵庫県 | 大西 舞奈 | 一般財団法人明石コミュニティ創造協会 |
| 和歌山県 | 古谷 優周 | 和歌山県 |
| 和歌山県 | 佐々木 洋輔 | 和歌山県有田振興局地域づくり部地域づくり課 |
| 島根県 | 遠藤 正嗣 | 今福まちづくり委員会 |

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

| | | |
|-----|--------|---------------------|
| 島根県 | 竹田 尚子 | 松江NPOネットワーク |
| 島根県 | 中寺 綾 | 島根県しまね暮らし推進課 |
| 島根県 | 山崎 志津乃 | 益田市連携のまちづくり推進課 |
| 島根県 | 田原 米里子 | 益田市連携のまちづくり推進課 |
| 島根県 | 河野 利文 | とよかわの未来をつくる会 |
| 島根県 | 藤田 論 | 島根県海士町役場 |
| 香川県 | 後藤 努 | 香川県庁 |
| 香川県 | 豊島 夕起子 | 特定非営利活動法人まちづくり推進隊高瀬 |
| 香川県 | 香川 円佳 | 特定非営利活動法人まちづくり推進隊高瀬 |
| 香川県 | 尾崎 美恵 | 四国夢中人 |
| 福岡県 | 安本 彩乃 | 福岡県 |
| 長崎県 | 塩井 康秀 | 長崎県地域づくりネットワーク協議会 |
| 長崎県 | 松村 信彦 | 長崎県地域づくりネットワーク協議会 |
| 長崎県 | 本多 良成 | 長崎県地域振興部地域づくり推進課 |
| 長崎県 | 宮本 浩次郎 | 長崎県地域振興部地域づくり推進課 |
| 大分県 | 河野 良太 | 大分県電子自治体推進課 |

第6分科会 西諸県 ブロック

| | | |
|------|--------|------------------------|
| 栃木県 | 平野 歩 | 特定非営利活動法人大谷商工観光協会の会 |
| 栃木県 | 柴 菜々瀬 | 宇都宮市役所 |
| 栃木県 | 高橋 雅人 | 宇都宮市役所 |
| 栃木県 | 矢村 麻南美 | 栃木県地域振興課 |
| 兵庫県 | 木下 道則 | ふるさとひょうごガイドの会 |
| 和歌山県 | 瀬畑 佑衣 | 和歌山県西牟婁振興局地域づくり部地域づくり課 |
| 島根県 | 渡邊 一枝 | 出雲国ジオガイドの会 |
| 島根県 | 前田 みのり | 出雲国ジオガイドの会 |
| 島根県 | 大屋 亮二 | 今福まちづくり委員会 |
| 島根県 | 田邊 光 | 公益財団法人ふるさと島根定住財団 |
| 鳥取県 | 田栗 栄一 | 讃郷愛林協会 |
| 鳥取県 | 田栗 明美 | 讃郷愛林協会 |
| 長崎県 | 中山 忠治 | 壹岐・島おこし応援隊「チーム防人」 |
| 長崎県 | 長嶋 保代 | 壹岐・島おこし応援隊「チーム防人」 |
| 長崎県 | 小林 善輝 | NPO法人グリーンクラフトツーリズム研究会 |
| 熊本県 | 江浦 誠 | 自立応援団 |
| 熊本県 | 沢畑 亨 | 愛林館 |
| 熊本県 | 藤本 峰子 | ゆのまえGT未来ネット |
| 熊本県 | 小川 聡 | 田舎体験交流館さんがうら |
| 沖縄県 | 山城 定雄 | 公益社団法人沖縄県地域振興協会 |

第7分科会 都城・北諸県 ブロック

| | | |
|-----|--------|---------------|
| 栃木県 | 砂山 俊之 | 小山市役所総合政策課 |
| 栃木県 | 小口 浩毅 | 小山市役所総合政策課 |
| 栃木県 | 大塚 聡 | 小山市役所総合政策課 |
| 栃木県 | 戸野塚 和紀 | 小山市役所 |
| 栃木県 | 大瀧 温子 | 栃木県茂木町役場 |
| 栃木県 | 石川 修子 | 農事組合法人そばの里まぎの |
| 栃木県 | 藤田 悦男 | 小砂 village協議会 |
| 栃木県 | 笹沼 正嗣 | 那珂川町企画財政課 |
| 栃木県 | 高橋 兵雄 | 栃木県地域振興課 |
| 石川県 | 渡辺 直英 | 石川地域づくり協会 |
| 埼玉県 | 茂木 八千代 | 文科創生研究所 |

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

| | | |
|------|--------|-----------------------|
| 東京都 | 川住 昌光 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 東京都 | 山岸 美貴 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 東京都 | 手塚 聡 | 総務省地域自立応援課 |
| 大阪府 | 古澤 拓哉 | |
| 和歌山県 | 中野 尚 | |
| 鳥取県 | 池田 幸恵 | |
| 島根県 | 岩崎 敏 | 今福まちづくり委員会 |
| 島根県 | 内藤 陸人 | 島根県西部県民センター益田事務所 |
| 島根県 | 田邊 裕子 | えーひだカンパニー株式会社 |
| 島根県 | 田邊 泰成 | えーひだカンパニー株式会社 |
| 島根県 | 犬山 直之 | 松江市民生活相談課 |
| 福岡県 | 田原 優華 | 福岡県政策支援課 |
| 長崎県 | 岡本 勇一 | 野母崎で音楽を聴く会 |
| 長崎県 | 山田 勝俊 | 藤の棟ヤギノ里 |
| 長崎県 | 山口 成美 | 有限会社シュシユ |
| 長崎県 | 小川 ひとみ | 面白ちんぐ倶楽部 |
| 長崎県 | 福喜 京子 | 面白ちんぐ倶楽部 |
| 長崎県 | 福喜 哲史 | 長崎ふるさと伝習塾 |
| 長崎県 | 豊原 稔 | 長崎県地域づくりネットワーク協議会 |
| 熊本県 | 川内 孝之 | 山江村観光交流促進協議会 |
| 熊本県 | 犬童 悠哉 | 球磨サイクリングクラブ |
| 熊本県 | 本田 節 | ひまわり亭 |
| 沖縄県 | 宮里 萌以 | 公益社団法人沖縄県地域振興協会 |
| 宮崎県 | 徳永 貢 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 植村 道広 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 藤巻 佑輔 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 田中 乃衣 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |

第8分科会 日南・串間 ブロック

| | | |
|-----|--------|-----------------------|
| 栃木県 | 紺野 勝寛 | スマイルきくさわ |
| 栃木県 | 林 大輔 | 真岡まちづくりプロジェクト |
| 栃木県 | 亀山 貴則 | 板荷畑いつくし美会 |
| 栃木県 | 鍛原 大介 | 鹿沼市総合政策部総合政策課 |
| 東京都 | 大橋 賢二 | 地域づくり団体全国協議会 |
| 兵庫県 | 岡田 雄邦 | メイプルタウンクラブ |
| 兵庫県 | 藤原 慎一郎 | メイプルタウンクラブ |
| 兵庫県 | 尾前 和彦 | メイプルタウンクラブ |
| 兵庫県 | 鎌田 勝也 | 公益財団法人しろう森林王国観光協会 |
| 島根県 | 永見 昌之 | 今福まちづくり委員会 |
| 島根県 | 吉留 朋美 | 公益財団法人ふるさと島根定住財団 |
| 長崎県 | 大島 利通 | 渡良小学校区まちづくり協議会 |
| 熊本県 | 福島 貴志 | 自立応援団 |
| 熊本県 | 生駒 春美 | 自立応援団 |
| 沖縄県 | 内野 明香 | 公益社団法人沖縄県地域振興協会 |
| 宮崎県 | 徳永 由佳 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 植村 朱美 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 原山 はるみ | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 中原 香津子 | NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会 |
| 宮崎県 | 川端 輝治 | 国立大学法人宮崎大学 |

